

世の光 (IV)

目次

「わたしたちはメシヤにいま出会った」	5
イエスは十二人を召された	10
最初の伝道旅行	15
一致した働き	20
福音伝道とは何か	26
キリストと共に働く働き人	31
個人的な奉仕	36
一人の魂の聴衆—ニコデモ	41
一人の魂の聴衆—「サマリヤの女」	46
救い主を求める	52
福音の秩序	57
行ってすべての国民に教えよ	62
神はあなたを召しておられる!	67

セブンスデーアドベンチス
ト改革運動世界総会安息
日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.90, No.4

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

FAX : (0494) 40-1045

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
support@4angels.jp

イラスト : Illustrations:
Sermonview on front cover;
Map_Resources on pp. 4, 51,
and back cover; Wikipedia
on p. 25 and back cover.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

今年の最初の3四半期の間、キリストの初臨前の神の民の歴史から、伝道における教訓を研究してきました。今期はキリストの最初の弟子たちと初期のキリスト教会の経験から伝道の教訓を見ていきます。わたしたちはまた、わたしたちが神の残りの民として神のご目的を果たすことができるように神がわたしたちの益のために備えてくださった指導を考察していきます。

「今日神の教会は、失われた人類に対する神の救いの計画を何の妨げもなく、その完成に向かって推進することができる。……バビロンから救い出されたときに、神の民に与えられた特権が、霊的イスラエルに回復された。地の至る所で、人々は、黙示録の筆者ヨハネが、キリストの再臨に先だって宣言されると預言した天からの使命に答えている。『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである』（黙示録 14:7）。」（国と指導者下巻 314-316）

「教会は人類救済のために神がお定めになった機関である。教会は奉仕するために組織された。その使命は世界に福音を伝えることである。教会を通して神の満ちあふれる豊かさを世界に反映させることが、神のはじめからのご計画であった。暗やみから驚くべき光に招き入れられた教会員たちは、神の栄光をあらわさなければならぬ。教会はキリストの恵みに富んだ宝庫であり、教会を通して神の愛がついには『天上にあるもろもろの支配や権威』に対してさえも十分明らかに示されるのである（エペソ 3:10）。」（患難から栄光へ上巻 1）

「罪と悲しみと痛みの暗黒に包まれた全地は、神の愛を知る知識で照らされなければならない。どのような宗派、また地位、階級の人々も、天の御座から出る光から除外されてはならない。希望とあわれみの使命は、地の果てまで伝えなければならない。だれでも望む者は、手を伸ばして神の力に頼り神と和らぐことができる。」（国と指導者下巻 319, 320）

この一連の学びがわたしたちの安息日学校の生徒たちを助けてもっと効果的な伝道者となり、世に最後の憐れみのメッセージを伝えに出て行くことができますように。これがわたしたちの祈りです。

世界総会安息日学校支部

第一安息日学校献金

フィリピン・ユニオンの本部のために

フィリピンは 7107 の島々からなる列島で、総面積は 300,000 万平方キロメートル (115,831 平方マイル) です。諸島は三つのグループに分けられます。すなわち、ルソン島、ビサヤ諸島、ミンダナオ島です。2013 年 1 月の人口はおおよそ、9,900 万人でした。フィリピンにはおおよそ 170 以



上の方言がありますが、フィリピン語と英語が広く用いられています。フィリピンは霊的な信条が多岐にわたっており、そこには、カトリック、プロテスタント、イスラム教、仏教、ヒンズー教、またその他があります。

改革のメッセージは、D. ニコリッチがフィリピンを訪れた 1958 年の終わりに始まりました。これはダバオ市でアドベンチストの大きな宗派から分離したアドベンチスト信徒から受けた要請に応えたものでした。1959 年にフィリピン・ユニオンが組織されました。そのとき以来、忠実な働き人たち、牧師たち、信徒たちは自分たちの伝道の働きを続け、真理の旗印をこの国のさまざまな島に携えていきました。今日、フィリピン・ユニオンには 5 つのミッションがあり、60 以上の教会や集会所があり、1375 名の教会員からなっています。また二つの伝道訓練学校があり、いつもわたしたちの伝道活動の妨げとなっている資金難にもかかわらず、定期的に運営されています。

わたしたちのユニオン本部のために使用している建物は 1970 年に首都マニラに建てられました。今、この古いビルは修理の連続です。しかし、フィリピンの信徒たちは、より適切な場所へ本部を移転し、古いビルを印刷所として使用することを決定しました。

この状況において、フィリピン・ユニオンはすべての信徒たちの援助をもってしてもこの事業を続行することが資金的に不可能です。そこで、世界中にいるすべての兄弟姉妹がたに、祈りと資金的な祝福を分けてくださることによってわたしたちを助けて下さるよう、お願いいたします。

この気高い要望が実現するのを心待ちにしています。

主がなしとげるべき責任として与えてくださったことをわたしたちが行動に移すとき、主に栄光が帰せられますように。皆さんを神様が祝福してくださいますように。

フィリピンにいる皆さんの兄弟姉妹より

「わたしたちはメシヤにいま出会った」

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」(ヨハネ 1:29)

「イエスのために道を備えるために、ヨハネがエリヤの霊と力をもってつかわされた。ヨハネの証言を否定した人たちは、イエスの教えから何の益も受けなかった。」(初代文集 421, 422)

推奨文献：各時代の希望上巻 147-164

日曜日

9月28日

1. バプテスマのヨハネ

- a. バプテスマのヨハネとエルサレム当局の人々との会見を考えると、バプテスマのヨハネが自分自身と自分の働きを確認した方法から、どのような教訓を学ぶことができますか (ヨハネ 1:19-28)。

「バプテスマのヨハネが伝道を始めた時、多くの者はヨハネのことを死から甦えらせられた預言者モーセかも知れないと思った。」(各時代の希望上巻 151)

- b. 祭司やレビ人たちとの会見の翌日、ヨハネは何を宣言しましたか (ヨハネ 1:29-34)。

「おそれと驚きの思いをもって、人々はいま神のみ子と宣言されたおかたを見つめた。彼らはヨハネのことばに深く心を動かされていた。彼は神のみ名によって人々に語っていた。彼らはヨハネが彼らの罪を責めるのを毎日きき、彼が天からつかわされたのだという確信は日ごとに強くなっていた。しかしこのバプテスマのヨハネよりも偉大なおかたというのは一体だれののだろうか。その服装にも態度にも身分をあらわすようなものは何もなくあった。見たところその人は彼らと同じように貧しい人々の着る粗末な衣服をまとったただの人間にすぎなかった。」(各時代の希望上巻 154, 155)

2. 「彼をイエスのもとにつれてきた」

- a. 翌日、バプテスマのヨハネは何と言いましたか。彼の言うことを聞いていた者として特別にだれのことを言及されていますか（ヨハネ 1:35, 36）。
- b. これらのバプテスマのヨハネの二人の弟子たちは、どのように伝道者に不可欠な態度がありましたか（ヨハネ 1:37-39）。

「もしヨハネとアンデレが祭司たちや役人たちのように不信な気持をいだいていたら、彼らはイエスの足下に学ぶ者とはならなかったであろう。彼らは批判者としてイエスのところへやってきて、そのみことばを批判したであろう。多くの者はこのようにして最もとうとい機会に対して戸をとぎす。しかしこの最初の弟子たちはそうはしなかった。彼らはバプテスマのヨハネの説教のうちにあった聖霊の召しに応じていた。いま彼らは天来の教師のみ声をみとめた。彼らにとってイエスのみことばは新鮮さと真理と美しさに満ちていた。天来の光が旧約聖書の教えを照した。真理の多方面のテーマが新しい光の中にはっきりとうつし出された。

魂が天の知恵を受けることができるのは、くだけた心と信仰と愛によってである。愛によって働く信仰は知識の鍵であり、愛する者はみな、「神を知っている（ヨハネ 第一 4:7）。」（各時代の希望上巻 157）

- c. これらの最初の二人の弟子はだれでしたか（ヨハネ 1:40）〔注：ヨハネの福音書を記す際に、著者は一度も自分自身をその名前で明かしていない〕。イエスと時間をすごした後の、良い知らせを分け与えたいというアンデレの願いを説明しなさい（41 節）。

「弟子ヨハネは、まじめで深い愛情を持ち、熱烈でしかも瞑想的な人だった。彼はキリストの栄光が、これまで待望するように教えられていたような世俗的なきらびやかさと権力ではなく、『父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまこととに満ちて』いることをみとめ始めていた（ヨハネ 1:14）。彼はこの驚くべきテーマについて瞑想にふけた。

アンデレは自分の心を満たしたよろこびをわけ与えようとつとめた。彼は、兄弟のシモンをさがしに行つて、『わたしたちはメシヤ（訳せば、キリスト）にいま出会った』と叫んだ。（各時代の希望上巻 157, 158）

3. ペテロ、ピリポ、ナタナエル

- a. イエスはシモン・ペテロをご覧になったとたんに、何と言われましたか（ヨハネ 1:42）。

「シモンは次の招きを待たなかった。彼もまたバプテスマのヨハネの説教をきいていたので、救い主のもとへ急いだ。キリストの目はシモンにとまり、彼の性格と経歴とを読みとられた。彼の感情的な性質、彼の同情と愛の心、彼の野心と自信、彼がつかずき、悔い改め、働き、そして殉教死をとげる経歴—救い主はそうしたすべてを読みとって、『あなたはヨハネの子シモンである。あなたをケパ（訳せば、ペテロ（石））と呼ぶことにする』と言われた。」（各時代の希望上巻 158）

- b. 新しい弟子は翌日、どのように良い知らせを分け与えたいという自分の願いを表しましたか（ヨハネ 1:43-45）。

- c. ナタナエルは、どのように良い知らせについて自分の心のうちにある疑いを表現しましたか。また、ピリポはどのようにその疑いを取り除こうと努めましたか（ヨハネ 1:46）。これらの最初のクリスチャン伝道者たちが、自分たちの働きにおいて用いた方法から、わたしたちは何を学ぶことができますか。

「人間の権威による指導にたよっているかぎり、だれも救いの知識である真理に到達することができない。ナタナエルのように、われわれは神のみことばを自分で研究し、聖霊の光を求めて祈る必要がある。いちじくの木の下のナタナエルをごらんになったおかたは、かくれた祈りの場所にいるわれわれをごらんになる。光の国の天使たちは、へりくだって天のみちびきを求める者の近くにいる。

ヨハネとアンデレとシモン、またピリポとナタナエルの召しによって、キリスト教会の基礎が置かれた。バプテスマのヨハネは自分の二人の弟子をキリストにみちびいた。その中の一人アンデレは自分の兄弟をみつめて救い主のもとへ呼んだ。それからピリポが呼ばれ、ピリポはナタナエルをさがしに行った。このような模範は、個人的な努力、すなわち肉親や友人や隣人に直接訴えることの重要性をわれわれに教えねばならない。一生の間、キリストを知っていると告白しながら個人的な努力によってたった一人の魂さえ救い主にみちびいたことのない人たちがいる。」（各時代の希望上巻 161）

4. もしあなたがたがわたしを信じるならば

- a. ナタナエルの不信にもかかわらず、イエスは彼について何と言われましたか(ヨハネ 1:47)。イエスのどの言葉によってナタナエルは驚きましたか。また彼はどのように応えましたか(48, 49 節)。
- b. イエスはご自分の働きが人類にもたらすことになる尊い祝福を喜びをもって望み見て、ナタナエルに何と言われましたか(ヨハネ 1:51)。この聖句を説明しなさい。

「もしあなたがたがわたしを……信ずるなら、あなたがたの信仰は活発になるであろう。あなたがたは天が開いて決してとじられないのを見せられるであろう。わたしがあなたがたに天を開いたのである。神の天使たちは、困っている人や苦しんでいる人の祈りをたずさえて天の父のみもとに昇り、祝福と望みと勇気と助けといのちとをたずさえて人の子らのもとにくだっているのであると。……

あらゆる祝福が神からわれわれのもとにくるのは、キリストを通し、天使たちの奉仕によってである。救い主はご自分に人性をとられることによって、ご自分の利害を墮落したアダムの息子、娘の利害と一致させ、一方またその神性によって神のみ座につながっておられる。こうしてキリストは、人が神とまじわり、神が人とまじわられる仲介である。」(各時代の希望上巻 164)

- c. わたしたちはどのようにしてキリストを通して神のみ許へ行くことができますか(ヨハネ 14:6)。

「善ときよきを望むのは正しいことであるが、そこでとどまるならなんの役にも立たない。クリスチャンになりたいと望みながら、滅びていく人が多い。かれらは神に自分の意志をささげるところまでこないからである。つまりかれらは、いまクリスチャンになることをえらばないからである。

意志を正しく働かせるならば生活は全く変わる。意志をキリストに全く服従させることによって、どんな主義よりも力よりも、はるかにまぎった力に自分を結びつけることになる。そして天よりの力をえてしっかりと立つことができ、絶えず神に服従することによって新しい生涯、すなわち信仰の生涯を送ることができるようになるのである。」(キリストへの道 61)

5. イエスのご品性を表す

- a. わたしたちは各々、どのように最高に効果のある伝道手法を用いるべきですか（ヨハネ第一 3:10, 11）。

「イエスが昇天されたいまは、弟子たちが人々の中にあってキリストの代表者である。だから魂をキリストにみちびく最も効果的な方法は、キリストの品性をわれわれの日常生活にあらわすことである。他人に及ぼすわれわれの感化は、われわれの言うことばよりはわれわれの人格次第である。人々はわれわれの訴えに抵抗するかもしれない。だが利害を超越した愛の生活は、彼らの否定できない議論である。キリストの柔和が目立っている矛盾のない生活は世における一つの力である。

キリストの教えは心の内部の自信と経験の表現であったが、キリストについて学ぶ者はキリストのような教師となる。神のみことばが、そのみことばによってきよめられた人によって語られるとき、それはいのちを与える力を持っていて、聞く人をひきつけ、みことばこそ生きた現実であることを確信させる。人が真理を愛してこれを受け入れるとき、それはその人の信念のある態度と声の調子にあらわれる。彼は他の人々がキリストを知ることによって彼とまじわることができるように、いのちのみことばについて自分が見、聞き、手でさわったところを知らせる。祭壇の上から取った燃えている炭にふれた唇から出る彼のあかしは、信ずる者の心にとって真理であり、品性にきよめが行なわれる。」（各時代の希望上巻 162, 163）

個人的な復習問題

1. バプテスマのヨハネは、イエス・キリストを認めるや否や、このお方について何と言いましたか。
2. アンデレの最初の伝道経験は何でしたか。またそこからわたしたちは何を学ぶべきですか。
3. ピリポはアンデレと同様にどのような関心を表しましたか。
4. わたしたちはどのように神のみ許へ行くかを説明しなさい。
5. 伝道の最も強力な手段を要約しなさい。

イエスは十二人を召された

「〔イエスは〕そこで十二人をお立てになった。彼らを自分のそばに置くためであり、さらに宣教につかわし」(マルコ 3:14)

「イエスはご自分の弟子たちを召されたが、それは彼らをご自分の証人としてつかわし、彼らのご自分について見聞きしたことを世に宣言するためであった。彼らの職務はかつて人間が召された中で最も重要なものであり、ただキリストご自身の任務に次ぐものであった。彼らは世の救いのために神と共に働く共労者となるのであった。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1912 年 1 月 11 日)

推奨文献：各時代の希望上巻 374-385

日曜日

10月5日

1. 十二使徒

- a. キリストはどのような種類の人々を、世に救いのメッセージを宣布するために訓練なさいましたか。彼らの名前は何でしたか (マタイ 10:2-4)。

「救い主は、……品性に欠点のある人々をご自分に結びつけ、彼の教えと模範の利益を受けることを許された。それは彼らに、自分たちの誤りを認めてそれを正す機会を与えるためであった。」(各時代の争闘上巻 36)

- b. キリストのどの言葉が、これらの人々の品性をご存知であったことを示していますか (ヨハネ 6:70)。

「救い主は、ご自分が選ばれた人々の性格をご存じだった。彼らの弱点やまちがいはみな、イエスにははっきりわかっていた。」(各時代の希望上巻 376)

「十二使徒の中には裏切り者がいた。ユダは、彼の品性の欠陥のためではなくて、欠陥にもかかわらず受け入れられた。」(各時代の争闘上巻 36, 37)

2. ユダ

a. どのように、またなぜキリストはユダをお受け入れになったのです (マタイ 8:19, 20)。

「イエスが弟子たちを按手礼のために準備しておられたとき、召されていないのに仲間に加わりたくと強要した者があった。それはイスカリオテのユダという男で、自らキリストの弟子と名乗っていた。いま彼はやってきて、弟子たちの仲間に入れてもらいたいとのんだ。彼は非常な熱心さと、見たところ真実な様子で、『先生、あなたがおいでになる所なら、どこへでも従ってまいります』と断言した。イエスは彼をことわることも歓迎することもなさらず、『きつねには穴があり、空の鳥には巢がある。しかし、人の子にはまくらする所がない』と悲しいことばを言われただけだった (マタイ 8:19,20) ……」

弟子たちは、ぜひユダに仲間の一人になってもらいたいと望んだ。ユダは、堂々たる外見をそなえ、鋭い洞察力と実行力を持った男だったので、弟子たちは、イエスの働きに大きな助けになる人物として、彼をイエスに推薦した。彼らは、イエスがこんなに冷淡にユダに應對されるのを見て驚いた。」(各時代の希望上巻 378, 379)

b. わたしたちのすべての者にあるように、ユダの前には、どのような選択肢が開かれていましたか (申命記 30:19)。

「もしユダが心をキリストに向かって開くなら、神の恵みは利己主義という悪鬼を追い出し、たとえユダでも神のみ国の住民となることができるのであった。……

ユダは、ほかの弟子たちと同じように機会があった。彼は、同じとうい教訓を聞いた。しかしキリストが要求された真理の実行は、ユダの心の思いや目的とくいちがっていた。」(同上 380)

c. どのような方法によってのみ、ユダは命を選ぶことができましたか。またそのような選択は、彼の側で何を伴ったはずですか (ヨハネ 1:12, 13; ペテロ第一 1:22, 23)。

「ユダが弟子たちの仲間に加えられたのは、彼がキリストの教訓と模範によって、キリスト者の品性がどのようなものであるかを知り、自分の過ちを認めて悔い改め、神の恵みの助けと、『真理に従うことによって』魂を清めるためであった (ペテロ第一 1:22)。」(各時代の争闘上巻 37)

3. 「わたしに学びなさい」

- a. 使徒パウロは、どのように神のための働きに召された男女の単純さを表現しましたか（コリント第一 1:26-28）。

「もし人々が訓練され、神について学ぶなら、神は彼らを人間的な要素のある品性のままに受け入れて、神のご用のために彼らを養成される。彼らは完全な人間だから選ばれるのではなくて、不完全な人間であるにもかかわらず、真理を知りこれを実行することにより、またキリストの恵みによって、神のみかたちに変えられる者となるために選ばれるのである。」（各時代の希望上巻 380）

「人生のありふれた歩みの中で、忍耐強く日々自分の義務を繰り返している苦勞人が多くいる。彼らには、働き出すなら、世の偉大な指導者たちの間に立たせるような潜在的な力があるが、それに気づいていない。これらの眠っている機能を目覚めさせ、発達させる巧みな手の一触が必要とされている。」（両親、教師、生徒への勧告 511）

- b. これらの最初の弟子たちにとって、キリストのための奉仕に召されるということは何を意味していましたか（ルカ 14:27, 33; エペソ 4:20-24）。

「イエスが弟子たちをご自分の奉仕に召されたとき、彼らは全員ひどい欠点を持っていた。柔和で心のへりくだったおかたと最も親密にまじわったヨハネでさえ、生れつき柔和で従順な人間ではなかった。彼とその兄弟は、『雷の子』と呼ばれた。……

〔しかし〕キリストを見ることによって、彼らの品性が一変した。」（各時代の希望上巻 381, 382）

- c. 自分たちの召しを果たすために、弟子たちはだれから学ぶ必要がありましたか。彼らの教育は、どの原則に基づいていましたか（マタイ 11:29; ヨハネ 17:26）。

「神に献身する生涯は、無知の生涯ではない。多くの人々がイエスが福音を宣傳するのに無学な漁師たちを選ばれたという理由で、教育に反対する。しかし、キリストの教えを信じた学識や誉ある人々は多くいた。もし彼らが恐れることなく自分の良心の確信に従っていたなら、このお方についていったのである。」（両親、教師、生徒への勧告 511）

4. わたしたちの召しを確かなものにする

- a. 使徒パウロが、自分はいつもテサロニケにいる信徒たちのために「わたしたちの神があなたがたを召しにかなう者となし」て下さるように祈っているというとき、それは何を意味していますか（テサロニケ第二 1:11）。
- b. 「天の召しにあずかっている」人々は（ヘブル 3:1）、どのように自分の召しを確かなものとするように教えられていますか（ペテロ第二 1:2-11）。

「あなたがたは一つの恵みを完成するまで次の恵みは培わずに待たなければならないと思ってはならない。そうではない。それらは共に成長し、絶えず愛という泉から養われるのである。わたしたちが生きる一日一日、キリストのご品性に完全に表されている祝福された特質を完成させていくことができる。そしてあなたがそうするとき、自分の家庭に光と愛と平和と喜びをもたらすことになる。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 943）

- c. 特に伝道者となるための召しを受けたと感じる人々に、どのような指示が与えられていますか（テモテ第二 2:15）。

「もし働き人が自らを完全に神に捧げ、力と天来の知恵を求め、努めて祈るならば、キリストの恵みがその人の教師となり、彼は自分の欠点を克服して、ますます神の事柄に知的になっていく。しかし、だれもそのために怠けてもいいと思って、時間と機会を浪費し、有能な者となるために不可欠な訓練をなおざりにしても良いと思うことがないようにしなさい。主は知識を得る機会がありながら、自分の手の届くところにある特権をいかさずになおざりにする者をお喜びにならない。……

地上のどの人々よりも、神のみ言葉によって啓発されている人々は、はるかにもっと勤勉に聖書を熟読したり、諸々の科学を勤勉に研究したりするために身をいれなければならないと感じるのである。なぜなら、彼の希望と召しは他のなにものよりも大きいからである。人が知識と知恵の源であられるお方と緊密につながればつながるほど、霊的と同様、知的にも助けを受けることができるのである。」（両親、教師、生徒への勧告 510）

5. イエスはなおも男女を呼んでおられる

- a. この終わりの時代に、地上における神の働きの完成に関して、わたしたちはどの聖句を心に留めておくべきですか（マタイ 24:14; 9:37, 38; コリント第二 4:7）。

「ガリラヤの漁師をお召しになったイエスは、いまなお人々をご自分の奉仕に召しておられる。しかもイエスは、最初の弟子たちを通して力をあらわされたのと同じに、われわれを通してよろこんで力をあらわされる。われわれがどんなに不完全で罪深い者であろうと、主はわれわれに、キリストとの共同者、キリストに見習う者となるようにとの招きを提供しておられる。キリストと一つになって神のみわざに働くことができるように、神の教えを受けなさいと、主はわれわれを招いておられる。

……

「〔コリント第二 4:7 引用〕。福音の宣伝が、天使にまかされないで、あやまちの多い人間にまかされた理由はここにある。人間の弱さを通して働く力は神の力であることが明らかである。……自分自身が危険の中にあつたために、彼らは道中の危険と困難をよく知っており、そのために彼らは、同じような危険のうちにあるほかの人々に手をさしのべるために召されているのである。疑いに悩み、弱さに苦しみ、信仰弱く、目に見えない神をとらえることのできない魂がいる。しかし彼らの目に見える友人がキリストの代りに彼らのところにやってきて、彼らのふるえている信仰をキリストに固くつなぐ環とすることができる。

われわれは、キリストを世に紹介するのに、天使たちと共に働く者となるのである。ほとんどじっとしていられないような熱心さで、天使たちは、われわれの協力を待っている。なぜなら人間が、人間と通信するチャンネルとならねばならないからである。だからわれわれが全心全霊をもってキリストに献身するときに、天使たちは、神の愛をあらわすのにわれわれの声を通して語ることができることをよろこぶのである。」（各時代の希望上巻 384, 385）

個人的な復習問題

1. イエスはユダがご自分を裏切ることをご存知であつたにもかかわらず、なぜまたどのようにユダをお受け入れになったのですか。
2. わたしたちはどのようにユダの悲劇的な過ちを避けることができますか。
3. キリストと共に働く際、鍵となる目標や必須要件のいくつかを説明しなさい。
4. 成功する伝道の真の秘訣とは何ですか
5. 召しを確かなものとするため、わたしたちはどのように指示されていますか。

最初の伝道旅行

「イエスは十二弟子を呼び集めて……神の国を宣べ伝え……（る）ためにつかわして」（ルカ 9:1, 2）

「これらの弟子たちは真理のさががけとなり、主人の来臨に道を備えるのであった。彼らのメッセージの主旨はバプテスマのヨハネのメッセージやイエスご自身のメッセージのそのの繰り返し、すなわち『神の国は近づいた』であった。」（ビュー・アノド・ヘラルド 1897 年 3 月 23 日）

推奨文献：各時代の希望中巻 78-93

日曜日

10月12日

1. 悔い改めへの召し

- a. キリストは、訓練期間の後、キリストの十二人の弟子たちを、どのメッセージと共に遣わされましたか（マタイ 10:7）。
- b. キリストは彼らにどの力をお与えになりましたか。また後の彼らの成功をご覧になって、このお方はどのような訓告をなさいましたか（マルコ 6:7; ルカ 10:20）。伝道者たちを二人ずつ送ることにはどのような恩恵がありますか。

「イエスは、十二人をみもとにお呼びになって、二人ずついっしょになって町々や村々をまわるようにお命じになった。だれも一人ではつかわされず、兄弟と兄弟、友だちと友だちが組み合わせられた。こうして彼らは、互に助け合い、励まし合い、共に助言したり祈ったりして、一方の力で他方の弱さを補うことができた。同じやり方で、イエスはのちに七十人をつかわされた。福音の使者たちがこのように組み合わせられることが、救い主のみこころであった。今の時代にこの模範にもっと忠実に従うなら、伝道の働きはもっとずっと成功するであろう。」（各時代の希望中巻 80）

2. 困窮している者を助ける

- a. キリストは公生涯の間、どのようにご自分の時間を配分されましたか(マタイ 4:23, 24)。

「イエスは、公生涯の間、説教することよりも病人をなおすことに、多くの時間をささげられた。イエスの奇跡は、イエスが滅ぼすためではなく救うためにおいでになったというみことばが事実であることを証明した。」(各時代の希望中巻 81)

- b. キリストの御霊のうちに、困窮している人を助け、このお方のメッセージを宣布する人々に、どの約束が成就しますか(イザヤ 58:8)。

「イエスに従う者は、イエスが働かれたように働くのである。われわれは、飢えた者に食べさせ、裸の者に着せ、苦しみ悩む者を慰めるのである。われわれは、絶望している者に奉仕し、望みのない者に望みを起させるのである。そのときわれわれにもまた『あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる』との約束が成就される(イザヤ書 58:8)。無私の奉仕にあらわされるキリストの愛は、悪事を行う者を矯正するのに、剣や裁判所よりも効果がある。剣や裁判所は、法律を犯す者に恐怖を与えるのに必要だが、愛の伝道者はそれ以上のことができる。」(同上 81, 82)

- c. クリスチャンの伝道者たちは今日、見せかけの奇跡的な癒しには関わりません。しかし、彼らは何をすることができますか。

「伝道者は肉体の病気を軽くすることができるばかりでなく、罪というらい病から魂をきよめてくださることのできる大医師に罪人をみちびくことができる。神は、ご自分のしもべたちを通して、病人や不幸な人たちや悪霊につかれた人たちに、ご自分のみ声をきかせようと計画しておられる。神は、人間といううつわを通して、世の人々が知らなかったような慰め主になることを望んでおられる。」(同上 82)

「真理を信じる人々は、健康改革を実践するだけでなく、それを勤勉に他の人々に教えるべきである。なぜなら、それを通して不信者の注意に真理を提示するための媒介となるからである。彼らはわたしたちが健康と節制に関してこのような健全な考えを持っているなら、わたしたちの宗教上の信念においても調べるだけの価値のあるものがあるに違いないと判断するようになる。」(伝道 514)」

3. 効果的な戸別訪問の働き

- a. キリストは効果的な戸別訪問の働きについて、弟子たちにどのような指示をお与えになりましたか（マタイ 10:11-14; ルカ 10:5）。

「どこでも、価値のある人々やキリストご自身をもてなすかのように心から彼らを歓迎する人々のもてなしは受けてよかった。彼らは、『平安がこの家にあるように』との美しいあいさつで住居にはいつて行くのであった（ルカ 10:5）。その家庭は、彼らの祈りや、賛美の歌や、家族が集まって聖書を開くことなどによって祝福されるのであった。」（各時代の希望中巻 83）

- b. 弟子たちの最初の伝道旅行で、弟子たちはだれのところへまず行くべきでしたか（マタイ 10:5, 6）。またなぜですか。

「もしその時、異邦人やサマリヤ人に福音を説いていたら、彼らはユダヤ人に対する影響力を失ったであろう。彼らはパリサイ人の偏見をひき起して、論争にまきこまれ、そのために働きの初めから落胆したであろう。使徒たちでさえ、福音はすべての国々に伝えられるのだということをなかなか理解しなかった。この事実を彼らが自らつかむことができるまでは、異邦人のために働く準備ができていなかった。もしユダヤ人が福音を受け入れたら、神は彼らを異邦人への使者にしようと考えておられた。」（同上 82）

- c. 70 人の弟子たちが人々の家庭に入るとき、イエスはどのように家庭のもてなしに対する感謝と敬意を示すべきだと勧告なさいましたか（ルカ 10:7-9）。それはなぜですか。

「〔ルカ 10:1-3, 8, 9 引用。70 人の弟子たちは、この〕メッセージを見失ったり、あるいは重要でない事柄や、イエスが彼らに教えるようにとお命じになった重要な真理に対して戸を閉ざすことになるような事柄をめぐって議論に入ったりしてはならなかった。」（この日を神と共に 113）

4. おおかみのただ中の羊

a. マタイ 10:16 中のキリストの警告には、どのような意味がありますか。

「キリストのしもべたちは、生れつきの心が命じるままに行動しない。彼らは、挑発されて、自我が頭をもたげ、不似合いなことば、枯れしぼむ草木をうるおす露や小雨のようなことばをはきちらすことがないように、神と密接にまじわる必要がある。こうしたことは、サタンが彼らにさせようと望んでいることである。なぜならそうしたことはサタンの手段だからである。……神のしもべたちは神の代表者となるのである。神は、彼らが神ご自身のみかたちと刻印とを備えている真理を、天の雰囲気のうちにとり扱うように望んでおられる。彼らが悪にうち勝つ力は、キリストの力である。キリストの栄光が彼らの力である。彼らは、キリストの美しさに目をそそぐ。その時彼らは、天来の機知とやさしさとをもって福音を示すことができる。こうして、腹が立つようなことがあってもやさしさを失わない精神は、どんな力強い議論よりも、真理のためにずっと効果的に語るのである。

真理の敵との戦いにはいった人たちは、人間だけでなく、サタンとその部下にも対抗しなければならない。こうした人々は、『わたしがあなたがたをつかわすのは、小羊をおおかみの中に送るようなものである』との救い主のみことばをおぼえているがよい（ルカ 10:3）。彼らは、神の愛のうちに安んじるがよい。そうすれば、個人的にひどい仕打ちを受けても、冷静な精神を保つことができる。主は、彼らに天来のよろいかぶとを着せてくださる。聖霊が心と思いに働くので、彼らの声はおおかみのほえるような調子を帯びない。」（各時代の希望中巻 85, 86）

「神の御霊の感化力の下にいる人々は、狂信的になることなく、かえって静かで落ち着いており、思想も言葉も行動も行き過ぎることがない。欺瞞的な教理の混乱の中で、神の御霊は真理の証拠を拒んだことのない人々を導き、盾となり、真理であられるお方から出る声以外のすべての声を沈黙させられるのである。」（福音宣伝者 289）

b. ご自分の弟子たちに対する指示を続けて、キリストが「人々に注意しなさい」と言われたとき、それはどういう意味でしたか（マタイ 10:17）。

「〔弟子たち〕は、神を知らない人たちを盲目的に信頼して、自分の考えを彼らに打ち明けるようなことをしてはならなかった。そうすることは、サタンの部下たちを有利にするからであった。」（同上 86）

5. キリストを告白する

- a. キリストは指示を続けて、人々の前で正しくこのお方を告白する重要性をどのように強調なさいましたか (マタイ 10:32, 33)。

あなたがたは地上にあってわたしの証人、世の人々をいやすためにわたしの恵みが流れて行く水路となるのである。同じようにわたしも、天においてあなたがたを代表する者となる。天父はあなたがたの欠点のある品性をごらんにならないで、わたしの完全を着せられたあなたがたをごらんになる。わたしは天父の祝福をあなたがたにそそぐなかだちである。そして、失われた者のためにわたしと犠牲を共にすることによって、わたしを告白する者はだれでも、あがなわれた者の栄光とよろこびを共にする者として、わたしはその人を告白しよう。

キリストを告白したい者は、自分のうちにキリストに住んでいただかねばならない。彼は、自分が受けていないものを伝えることはできない。弟子たちは、教理について雄弁に語ることも、キリストご自身のみことばをくりかえすこともできたかもしれない。しかし、もしキリストのような柔和と愛をもっていなかったら、彼らは、キリストを告白していることにならなかった。告白はどうであろうと、キリストの精神に反する精神は、キリストをこぼんでいるのである。人は、悪口やおろかなおしゃべりや、不真実なことばや不親切なことばなどによって、キリストをこぼむかもしれない。人はまた生活の重荷を避けたり、罪の快樂を追い求めたりすることによって、キリストをこぼむかもしれない。彼らは世に従ったり、無作法な行為をしたり、自分自身の意見に執着したり、自分自身を義としたり、疑いをいだいたり、とり越し苦労をしたり、暗黒のうちに住んだりすることなどによって、キリストをこぼむかもしれない。すべてこうしたやり方によって、彼らはキリストが自分のうちにおられないことを宣言するのである。」(各時代の希望中巻 91, 92)

- b. 忠実にキリストを告白するすべての人は、どの保証をわがものと主張することができますか (黙示録 3:5)。

個人的な復習問題

1. 70 人の弟子たちに委ねられた使命を説明しなさい。
2. クリスチャンは、今日病人のために何ができますか。
3. 効果的な戸別訪問伝道において鍵となる要素をいくつか挙げなさい。
4. わたしたちは「おおかみの中の羊」という言葉をどのように理解すべきですか。
5. キリストを正しく、あるいは間違って表すいくつかの方法は何でしょうか。

一致した働き

「そして〔キリストはさまざまな責任や務めをお定めになった〕、……それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者が、……信仰の一致……にまで至るためである。」(エペソ 4:11-13)

「『教会は、神の言葉に逃れていつて、これまで無視されおろそかにされていた福音の秩序に、堅く立たなければならない』。……これは教会が信仰において一致するためには、どうしても必要なことであつた。」(初代文集 195)

推奨文献：患難から栄光へ 92, 93, 97, 98.

日曜日

10月19日

1. 進歩への鍵

- a. キリストは他のすべての人から離れて単独で労するように召しておられますか。もしくは、わたしたちが神に服する人々と一致して働くことを望んでおられますか。地上の教会はどの条件に基づいて、勝利から勝利へと進んでいくのですか(ヨハネ 17:21-23)。

「〔地上の教会の〕弟子たちがたえず結束して働いているかぎり、天使たちは彼らを先導し、道を開くのである。そして人々の心は真理を受け入れる準備をし、多くの者がキリストへと導かれる……何ものも教会の前進に逆らうことはできなかった。」(患難から栄光へ上巻 93)

- b. もし弟子たちがキリストの体として一致して働くことに失敗するなら、彼らは何をすることができるでしょうか(ヨハネ 15:4, 5)。

「福音宣伝の範囲は世界的なものでなければならなかった。十字架の使命者たちはクリスチャンの一致のぎすなで結ばれ、こうして彼らが、神にあってキリストと一つであるということを世に示さないかぎり、彼らの大切な使命を達成することは望めなかった。」(同上 92)

2. 神の奉仕のために男女を選ぶ

- a. 地上の教会のメンバーが増えるにしたがって、次のとるべき福音の秩序に調和した段階は何ですか（使徒行伝 6:2, 3）。執事として按手を受けるべき人々を選んだのはだれでしたか。主な要件として、どのような道徳的また霊的資質が考慮されましたか。

「〔使徒行伝 6:2-4 引用〕。そこで教会は神の働きに付随した事務的なことを処理するために、信仰と神の御霊の知恵に満ちた七人の男を選ぶことになった。」（生き残る人々 299）

「〔使徒行伝 6:1-7 引用〕。主はここにご自分の奉仕のために人を選ぶときに払うべき配慮の模範を挙げている。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1056）

- b. 按手の候補者たちに関して会衆は、どのように神に勧告を求めましたか（使徒行伝 6:6）。わたしたちはどのようにこの点に関する初期のクリスチャンの模範に従うべきなのですか（使徒行伝 13:1-3）。

「経験に富み健全な判断力を持った兄弟たちが集まって、神の言葉と聖霊の承認とに従って、熱心な祈りと共に、神の任命を受けたことの十分な証拠を示した人々に手をおいて、彼らを全く神の働きに献げるために聖別しなければならない。この行為は、彼らが神の使命者として、人間に与えられた最も厳粛なメッセージを伝えるために出て行くことを、教会が承認したことを示すのである。」（初代文集 196）

- c. 彼らは群れ全体にどのような一致した感化力を及ぼすことができましたか（コリント第一 1:10; 2:16）。

「初代キリスト教会で維持されていた秩序によって、彼らはよく訓練され、神の武器を身につけた軍隊として、団結して前進することができた。信者の群れはひろく散らばっていたとはいえ、みな一つのからだの部分であった。」（患難から栄光へ上巻 98）

3. 良きクリスチャンの奉仕のための資質

- a. 聖霊の指導の下で、魂を勝ち得るのに有望な人は、どのような資質を発達させるべきですか(マタイ 9:38; テモテ第一 3:2-7)。なぜ自己教育が必要なのですか。

「悪の潮流は弟子たちに対抗して激しく深く流れていたもので、彼らにゆだねられた働きは強力に進められる必要があった。」(患難から栄光へ上巻 25)

「神の奉仕に携わっている人々は、魂を勝ち得る働きにおいて、活発さと決断力とを示さなければならない。」(教会への証 6 巻 418)

「断固とした努力を払わずに、単に聖霊が自分たちを行動へ駆り立てるのを待っている人々は闇の中で滅びることになる。」(クリスチャンの奉仕 228)

- b. 真実さ、高潔さ：コリント第二 6:3; ペテロ第一 3:16

「パウロは天の雰囲気を持っていた。彼と交わった人々はみな、彼がキリストとながっていることを感じた。彼自身の生活が彼の宣べ伝える真理を例証していたため、彼の説教には説得力があった。ここに真理の力がある。きよい生活の、気取らない無意識の感化は、キリスト教のために与えることのできる最も説得力のある説教である。議論は、たとえそれが相手に反論の余地を与えないものであっても、なお反対しか引き起こさないことがある。しかし敬虔な模範は、完全には抵抗できない力を持っている。」(福音宣伝者 59)

- c. 礼儀正しさ、丁重さ、丁寧さ(クリスチャンの尊厳)：コロサイ 4:6。謙遜：マタイ 3:16; ヨハネ 3:30

「神の人、キリストの牧師は、徹底的にあらゆる良いわざを備えていることが要求される。尊厳だらけのもったいぶった牧師はこの良いわざに必要とされていない。しかし、礼儀正しさが説教壇で必要とされている。福音の牧師は自分の態度に無頓着であるべきではない。」(教会への証 1 巻 648)

「キリストの牧師は穏健、柔和、愛、忍耐、寛容、あわれみ、礼儀を持っているべきである。彼は思慮深く、思想と会話において高められており、ふるまいに責められるところのない者であるべきである。これが福音の尊厳である。」(同上 2 巻 568, 569)

4. その他の良いクリスチャンの奉仕のための資質

a. 気転：テモテ第二 2:22-26。正直、忠実：使徒行伝 6:3; コリント第一 4:2

「もし人に気転、勤勉、熱心さがあれば、彼はこの地上の仕事で成功を収める。そして同じ資質が神の奉仕に捧げられると、二倍も有能であることがわかる。なぜなら、神聖な力が人間の努力に結合するからである。」(教会への証 5 巻 276)。

「責任がある個人に委ねられなければならないとき、尋ねるべき質問は、彼が雄弁かあるいは富んでいるかではなく、彼が正直で、忠実で、勤勉であるかどうかである。なぜなら、彼の達成することが何であろうと、これらの資質がないならば、彼はまったく信任の地位にふさわしくないからである。」(同上 4 巻 413)

b. まじめな考え(用心深く、度の過ぎない考えと平静な判断)：テトス 1:8; ペテロ第一 1:13; 5:8。清潔、身なりの整った、きちんとした：コリント第一 14:40

「牧師たちは秩序を愛し、自らを律するべきである。そのとき、彼らはきちんと神の教会を律し、彼らによく訓練された兵卒の一団のように調和して働くことを教えることができる。……

天使たちは……悲しみのうちに立ち去る。なぜなら、彼らは混乱、注意散漫、秩序の崩壊を祝福することを承認されていないからである。」(同上 1 巻 649)

c. 精神的な教養、洗練された言葉、正しい言葉遣い：テモテ第二 2:15

「学校や大学でほとんど訓練を受けなかった人々が労し、相当の成功を収めてきた。しかし、これらの人々はもしごく当初に精神的な訓練を修得していたなら、もっと効果的に労したのである。」(福音宣伝者 92)

「わたしたちが自分の考えを適切な言葉で覆うことができないとしたら、わたしたちの教育は何をなし得るであろうか。」(教会への証 6 巻 380)

「正しい教養と言葉の力の使用は、クリスチャンの働きのすべての分野にかかわる。……わたしたちは気持ちのよい調子で語り、純潔で正しい表現、また親切で礼儀正しい言葉を用いることに慣れるべきである。」(クリスチャンの奉仕 223)

5. 協力

- a. わたしたちが主に伝道努力を祝福していただくことを期待する前に、農業の働きからどの教訓を学ぶべきですか（コリント第一 3:6-9）。

「主は、様々な能力を持った働き人の一致した努力によって諸都市のために働くよう望んでおられる。すべての人は指示を求めてイエスを仰ぐべきであって、知恵を求めて人に頼ってはならない。さもないとさまよい出ることになる。神と共に働く働き人として、彼らは互いに調和のうちにいることを求めるべきである。頻繁に相談し、熱心で真心から協力すべきである。しかしなお、すべての人は知恵を求めてイエスを眺めているべきであり、指示を求めて人間だけに頼ってはならない。」（教会への証 9 巻 109）

- b. まず第一に、わたしたちの伝道の働き進展は、何にかかっていますか（詩篇 127:1）。

「働きを成功させるのは人から発する力ではない。働きに完全をもたらすのは、人間の努力と共に働く天の知的存在者の力である。パウロが植え、アポロが水をやるかもしれないが、成長させてくださるのは神である。人は働きの中で神の分を果たすことはできない。人間の代理人として、人は神こそ偉大な働き人の主であられることを悟りつつ、神聖な知的存在者たちに協力し、単純さと柔和のうちに自分の最善を尽くすことはできる。働き人は埋葬されるかもしれないが、働きが止むことはなく、完成へ向かって進むのである。」（ビュー・アノド・ヘルト 1893 年 11 月 14 日）

個人的な復習問題

1. 伝道努力において一致して働く実際の恩恵を説明しなさい。
2. 按手を行う前に教会がとるべきいくつかの段階をあげなさい。
3. 魂を勝ち得るのに、重要不可欠な資質は何ですか。
4. わたしたちはクリスチャンの奉仕のために重要不可欠な資質をどのように培うことができますか。
5. わたしたちが伝道を理解するのに、どの農業的な例示が助けとなりますか。

第一安息日献金 アフリカの印刷所のために

SDA 改革運動のメンバーが安息日聖書教科を自国の言語で手に入れられない国が多くあることをご存知ですか。多くの人々は自分の真情を説明する基本的な出版物でさえ持っていません。証の書なしに終わりの時代の預言を研究することは容易でしょうか。

わたしたちが終わりの時に近づくにつれ、すべての信徒に押し迫る責任は、「すべての国民……に……あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ」という福音の任務です（マタイ 28:19, 20）。使徒パウロは、わたしたちに「信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである」ことを思い起こさせています（ローマ 10:17）。これこそ印刷されたページで伝えることが最も効果的なのです。

今まで、世界総会ではアフリカにおける状況の救済策を提供しようと相当量の文献を送ってきました。しかし文献は英語しかありません。実際にはアフリカ大陸に住んでいるほとんどの人は益をこうむることがないのです。いくつかの公用語はアフリカーンス語、アラビア語、英語、フランス語、ポルトガル語、スワヒリ語ですが、膨大な数の人々は地元の方言しか使いません。アフリカには 2000 以上もの言語があるとも言われています。

神のみ恵みにより、世界総会はアフリカに二つの出版所を設立することを決定しました。一つはアンゴラに建て、アフリカ大陸の南部と西部を支援し、またもう一つはルワンダに建て、アフリカの中央と東部を支援します。これは小さな始まりであり、この先多くの課題があることでしょう。しかし、わたしたちは主と、また世界中の信徒の祈りと惜しみない援助に信頼し、これらの小さい灯台が尊い真理を大陸の最も暗い地域に行き渡るようにすると信じています。

「各地に散在する地の住民のなかには、バアルにひぎをかがめない者がある。……異教のアフリカ、……海の島々、地のあらゆる暗黒の隅々に、神は、なお、暗黒のただ中に輝き出る選ばれた人々の星空を保っておられる。」（国と指導者上巻 156）

キリストがわたしたちを家に連れ帰ってくださるまで、多くの人々の道を照らすために、これらの貴重な灯台を起し、支援することができますように。神様が皆さんを祝福してくださいように。

世界総会出版部



福音伝道とは何か

「貧しい人たちはいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときにはいつでも、よい事をしてやれる。」(マルコ 14:7)

「キリストの愛は、墮落した者、まちがっている者、罪深い者を包む。墮落した魂をひきあげるためになされたすべての親切な行為、すべての愛の行為は、主に対してなされたものとして受けとられる。」(彼を掲げよ 82)

推奨文献：各時代の希望下巻 107-114

日曜日

10月26日

1. わたしたちは神の管理者である

- a. 神が地を祝福してくださった豊かさの中から、このお方は貧しい者を支えるために、どのような備えをしてられましたか(詩篇 65:9-11; 68:10; 107:9)。
- b. キリストは「あわれみ深い人たちは、さいわいである」と言われるとき、ご自分に従う人々にどの義務を課しておられますか(マタイ 5:7)。

「憐れみを働かせる必要が今日ほど大きかったときはかつてなかった。貧しい人々はわたしたちの周りのいたるところにいる。すなわち、悲嘆にくれている人、苦しんでいる人、悲しんでいる人、そして今にも滅びようとしている人々がいる。

富を得た人は、神が彼らにお与えになったタラントを用いることによってそれらを得たのである。しかしこれらの財産を得るためのタラントは、彼らが貧困のうちにいる人々を救済することができるようにと与えられたのであった。これらの賜物は、正しい者にも正しくない者にも、太陽をのぼらせ、雨を降らして下さるお方によって彼らに与えられたのであった。それは地の豊かな実りによって、人が自分たちのすべての必要のために十分な供給を得ることができるためであった。」(福祉伝道 15)

2. 世に対するわたしたちの義務

- a. ヨハネ第一 5:19 によると、全世界は闇の力の支配下にあるため、どのような悲惨さがクリスチャン国家だと言われているところにさえ存在していますか。

「神はご自分のみ摂理のうちに、ご自分の豊かさを地に積み、その貯蔵庫を命の慰めで満たして下さっているが、欠乏と悲惨はいたるところにある。惜しみないみ摂理は、このお方の人間の代理人の手中に、すべての人の必要を満たすのに十分なものを委ねてきたが、神の管理人が不忠実なのである。クリスチャンだと公言する世界において、すべての飢えた者の欠乏を満たし、裸の者に着せるのに十分なものが、高価な見せびらかしのために浪費されている。キリストのみ名を自らの身に帯びている多くの人々は、このお方の金銭を利己的な快楽や食欲の満足、強いアルコール飲料や贅沢な美食、高価な家屋や家具や衣服のために費やしているが、その一方で苦しんでいる人間に対して、哀れみのまなざしも同情の言葉もめったにないのである。

クリスチャンだと公言している諸国の中心部になんという惨めさが存在していることであろう。わたしたちの大都市にいる貧しい人々の状態を考えてみなさい。これらの諸都市には、動物に与えられる保護や考慮ほども受けていない人々が大量にいる。ぼろぼろになって半分飢えかけている不幸な子供たちが幾千という。彼らの顔には悪徳と墮落が記されている。」（教会への証 6 巻 274, 275）

- b. 救いの道の知識のほかに、神はわたしたちがどの祝福を世に与えることを望んでおられますか（イザヤ 58:7; ヤコブ 1:27）。

「ある人々はこの働きに金銭を捧げれば、それが要求されているすべてだと考えている。しかし、それは誤りである。献金は個人的な働きへの代わりにはならない。わたしたちの財産を捧げることは正しいことであり、もっと多くの人がそうすべきである。しかし、彼らの力と機会にしたがって、すべての人に個人的な奉仕が求められている。

困窮している人々、虐げられている人々、苦しんでいる人々、欠乏している人々を集める働きは、この時代のための真理を信じるすべての教会がずっと久しい以前よりなしているべき働きそのものである。」（同上 275, 276）

「天使たちは人間が実際に真理の原則を実行することにおいて彼らと協力するのを待っている。この働きが多くが成し遂げられるのは、わたしたちの治療院や同類の事業という手段を通してである。」（同上 7 巻 58, 59）

3. 「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」

- a. どのような種類の自己犠牲が、真にキリストのご品性を表したものですか（ガラテヤ 6:9, 10; ローマ 12:20）。

「わたしたちは身体的な必要を満たし、飢えている者に食べさせ、見放された貧しい人を自分たちの家庭に連れてきて、神から日々、人間の悲惨さの深みにまで手を差し伸べ自らを助けることのできない人々を助けることができるようにさせる恵みと力を集めることにおいて、サマリヤ人の優しい同情を示すべきである。」（教会への証 6 巻 276）

「この〔良いサマリヤ人の物語による〕教訓は、それがイエスの口から出た時にとらないほど今日も、この世にとって必要である。利己主義と冷たい形式主義が愛の火をほとんど消してしまい、品性を香り高いものとする美德を追い払ってしまった。キリストのみ名を称する多くの者は、クリスチャンはキリストを表わさねばならないという事実を忘れている。家庭の中において、隣近所において、教会の中において、われわれがどこにしようと、またわれわれの職業が何であろうと、ほかの人の幸福のために実際に自己犠牲を払うのでなければ、われわれは口では何と言おうとも、クリスチャンではない。」（各時代の希望中巻 307, 308）

- b. わたしたちはどのようにしてもっともよく、隣人たちの宗教的な関心呼び覚ますことができますか（テサロニケ第二 3:13）。

「すべての教会員は、自分の住んでいる近隣の人々のために働くことを自分の特別な義務だと感じるべきである。どのようにして宗教的な事柄に関心のない人々を最善の方法で助けられるか研究しなさい。あなたが友人や隣人を訪ねるとき、彼らの霊的なことばかりでなく、この地上での幸福にも関心を示しなさい。キリストを罪を許される救い主として提示しなさい。あなたの隣人を自分の家庭に招き、彼らに尊い聖書から、またその真理を説明している書物から読みなさい。これは単純な歌と熱心な祈りと一緒になって、彼らの心の琴線に触れる。教会員はこの働きをするように自らを教育しなさい。これはまさに外国にいる善悪の区別がつかない魂を救うのと同じくらい重要不可欠である。ある人々は遠くの魂の重荷を感じるが、自国にいる多くの人々は自分たちの周りにいる貴重な魂の重荷を感じ、彼らの救いのために同じくらい勤勉に働こうではないか。」（教会への証 6 巻 276）

4. 憐れみ深い人々への特別な祝福

- a. キリストがその栄光のうちに来られるとき、そこには何種類の人々がいますか。このお方は、ご自分の「右に」いる人々に、何と仰せになりますか（マタイ 25:34-36）。

「さばきのときに、キリストからほめられる者たちは、神学についてはほとんど知っていなかったかもしれないが、彼らはキリストの原則を心に宿していた。天来のみたまの感化を通して、彼らはまわりの人たちの祝福になっていた。異教徒の中にさえ、親切心のある人たちがいる。いのちのみことばを聞かないうちから、彼らは宣教師たちと親しくなり、自分自身の生命の危険をおかしてまで宣教師たちに奉仕した。異教徒の中には、知らないで真の神を礼拝している人たち、すなわち人を通して光を与えられたことのない人たちがいるが、それでも彼らは滅びないのである。彼らは書かれた神の律法については無知であるが、自然を通して語りかける神のみ声を聞き、律法に要求されていることを実行した。彼らのわざは聖霊が彼らの心に触れた証拠であって、彼らは神の子らとして認められる。

諸国民や異教徒の中のへりくだる者たちは、救い主の口から、『わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』ということばを聞いて、どんなに驚き、よろこぶことだろう（マタイ 25:40）。限りない愛であられる主の心は、主に従う者たちがその嘉納のことばを聞いて驚きとよろこびの思いで見上げるとき、どんなにかよろこばれることだろう。……

〔キリスト〕は人類のひとりびとりと一体になられる。われわれが天の家族の一員となるために、主は地の家族の一員となられた。主は人の子であり、したがってアダムのすべての息子娘にとって兄弟である。」（各時代の希望下巻 108, 109）

- b. なぜわたしたちはあらゆる種類の罪人に憐れみ深くあるべきなのですか（マタイ 25:37-40）。

「〔キリスト〕に従う者たちは、滅びつつあるまわりの世の人々と無関係だと思ってはならない。彼らは人類という大きな網の一部である。天の神は、彼らを聖徒の兄弟であると同時にまた罪人の兄弟として見ておられる。キリストの愛は、墮落した者、まちがっている者、罪深い者を包む。墮落した魂をひきあげるためになされたすべての親切な行為、すべての愛の行為は、主に対してなされたものとして受けとられる。」（同上 109）

5. 無我の働き人になろうではないか

- a. 使徒パウロは罪人のための奉仕において天使たちと協力することをどのようにわたしたちに訓告していますか（ヘブル 13:1, 2）。

「困り苦しんでいるクリスチャンたちに戸を開く時、あなたは目に見えない天使たちを迎え入れているのである。あなたは天使たちとのまじわりを招いているのである。彼らはよろこびと平和のきよい雰囲気をもってくる。彼らが口に賛美をもってやってくるとき、天ではそれに応ずる歌の調べが聞かれる。愛の行為の一つ一つに天では音楽がかなでられる。天父はそのみ座から、無我の働き人をご自分の最もとうとい宝にかぞえられる。」（各時代の希望下巻 110）

「キリストが地上で生活された場所をおとずれ、キリストが歩まれた場所を歩き、キリストが好んでお教えになった湖のほとりや、キリストがたびたび目をとめられた丘や谷を眺めることができた大きな特権だろうと思う人が多い。しかし、イエスの足跡を歩むために、ナザレやカペナウムやベタニヤに行く必要はない。病床のかたわらや、貧しいあばらやや、大都会の雑踏する横町や、人の心が慰めを必要としている場所ならどこにでも、イエスの足跡がみいだされる。イエスが地上におられた時にされた通りのことをすることによって、われわれはイエスの足跡を歩むのである。」（同上 112）

「わたしの名のために苦しみを受けるすべての者のうちにあなたがたはわたしを認めるのであると、イエスは言われた。わたしに奉仕するように、あなたがたは彼らに奉仕すべきである。これがあなたがたがわたしの弟子である証拠である。」（同上 108）

個人的な復習問題

1. 「あわれみ深い人たちは、さいわいである」という言葉の中に、どの義務が示唆されていますか。
2. 真の伝道の遠大な領域を描写しなさい。
3. どの種類の自己犠牲が、キリストのご品性を真に表したのですか。
4. わたしたちはどのようにして最もよく隣人の宗教的な関心と呼び覚ますことができますか。
5. キリストがその栄光のうちに来られるとき、このお方はご自分の右にいる人々に何と仰せになりますか。

キリストと共に働く働き人

「聞く者も『きたりませ』と言いなさい。」(黙示録 22:17)

「キリストが去っていかれるとき、すべての人にその仕事を与えて下さった。これはわたしたち一人びとりに課されているのである。」(レ・ユ・ア・ド・ヘラルド 1888年12月18日)

推奨文献：各時代の希望下巻 364-378

日曜日

11月2日

1. わたしたちの第一の関心

- a. すべてのクリスチャンの第一の関心は何であるべきですか。伝道の働きは何から成っていますか(黙示録 22:17)。

「この世における職業がなんであろうと、第一の関心事は魂をキリストにみちびくことでなければならない。会衆に話すことはできないかもしれないが、個人のために働くことができる。……近いところにも遠いところにも、罪の意識にうちひしがれた魂がいる。人間を堕落させるのは困難や骨折り仕事や貧乏ではない。不義が、悪をなすことが人を堕落させるのである。それが不安と不満を生じさせるのである。キリストはご自分のしもべたちが、罪に悩む魂のために奉仕するように望まれる。

弟子たちは自分たちのいるところから働きを始めるのであった。最も困難で、最も見込みのない働き場をみすごしてはならなかった。同じように、キリストの働き人のひとりびとりは、自分のいるところから働きを始めるのである。われわれ自身の家族の中には、同情にかわき、生命のパンに飢えた魂がいるかもしれない。キリストのために教育すべき子供たちがいるかもしれない。われわれ自身の門口に異邦人がいる。一番近くにある働きを忠実にしよう。それから、われわれの努力を神のみ手がみちびかれるままに遠くへひろげよう。」(各時代の希望下巻 368, 369)

- b. どのような意味において、すべてのクリスチャンはキリストの愛が迫っていることを感じるべきですか(コリント第二 5:14, 15, 19)。

2. キリストの学校で学ぶこと

- a. なぜ、またどのようにわたしたちはキリストと共に働く働き人になるべきですか（コリント第二 6:1）。

「われわれは、魂と同様に、体にも、健康の回復をもたらすために神と共に働く者となるのである。」（各時代の希望下巻 372）

- b. わたしたちは救いの計画において、どのようにもっと効果的な共労者となることができますか（コロサイ 1:9, 10）。

「機械工でも、弁護士でも、商売人でも、あらゆる取引や職業の人々は自分が就職しようとする仕事の分野のために教育を受ける。自らできる限り有能な者になろうとするのが彼らの方針である。帽子職人や仕立職人のところへ行けば、自分の仕事に精通する前にどれほど長い間苦労したか告げるであろう。建築家は、趣味がよく広々した建物建築物を設計する方法を理解するのに、どれほどかかったかを語るであろう。そしてそれは人が従事するすべての召しにおいて同様である。

キリストの僕は、さらに限らないほど重要な働きのために準備するとき、それ以下の勤勉さを表すべきであろうか。彼らは魂を勝ち得るために用いるべき方法や手段について無知であってよいであろうか。……

み事業の進展が、教育された働き人の欠乏によって妨げられているというのは、嘆かわしい事実である。多くの人々が、道徳的また知的資質に欠けている。」（福音宣伝者 92, 93）

- c. わたしたちはどのようにキリストの学校で「完成を目ざして進」むことができますか（ピリピ 3:12-14; ヘブル 6:1）。

「神のみ事業は多方面にわたる才能を持つ人々、すなわち起案し、計画し、築き上げ、組織できる人を求めている。そしてこの時代のための働きの見込みや可能性を正しく評価する人は、熱心な研究によって、困窮して罪に病んでいる魂に奉仕する際に用いるあらゆる知識をみ言葉から得られるように努力する。牧師は決して、自分が十分知識を得たから努力をゆるめてもよいと考えるべきではない。」（同上 94）

3. 失われた羊を探す

- a. 家畜の群れに金銭を投資してきた人々にイエスはどの質問をなさいましたか（ルカ 15:4）。

「〔失われた羊の〕たとえの中の羊飼いは一匹の羊、すなわち、数として最少のものをさがしに出かけた。そのように、道に迷った魂がただ一人であつたとしてもキリストは、その人のためにおなくなりになられたはずであつた。

おりから迷い出た羊は、動物の中で一番無力なものである。羊は自分で帰って来ることができないから、どうしても羊飼いがさがしに行かなければならない。神から離れ去った魂もそれと同じである。神の愛の助けがさしのべられなかったならば、彼も道に迷った羊と同様に無力で、神に帰る道を見いだすことはできなかったのである。」（キリストの実物教訓 165, 166）

- b. キリストの共労者は、このお方の迷子の羊が一匹見つかったとき、どのようにふるまい、またどのように感じますか（ルカ 15:5, 6）。

「羊が一匹いなくなったことを知った羊飼いは、おりの中に安全にはいつている羊の群れをながめて、少しも驚いた様子もなく、『ここに九十九匹いる。迷った一匹をさがしに行くのはたいへんだ。そのうちに帰ってくるだろう。おりの戸をあけておいてはいれるようにしておこう』などとは言わない。一匹が迷い出たことを知るや否や、羊飼いはそれを悲しんで心配しだす。彼は、なん度も羊を数えなおす。いよいよ一匹が迷ったことが明らかになると彼は眠ることができない。九十九匹をおりに残して、道に迷った羊をさがしに出る。夜は暗く、あらしははげしい。道がけわしくなるにつれて、羊飼いの不安はつり、ますます熱心に捜し求める。彼は、道に迷っている一匹の羊を見いだすために全力をつくすのである。」（同上 166）

- c. ヨハネ第一 3:1; 4:19 はどういう意味ですか。

「神に愛していただくために、わたしたちが悔い改めるのではなくて、わたしたちが悔い改めに至るために、神がわたしたちに愛をあらわしてくださるのである。」（同上 169）

4. 失われた銀貨と放蕩息子

a. 譬の中で述べられている失われた銀貨は、何を表していますか（ルカ 15:8, 9）。

「なくなった銀貨は、……自分の状態を自覚していない人びとをあらわしている。……彼らの魂は危険にさらされているのに、それに気づかず、全く無関心でいる。キリストは、神のご要求に無関心な人びとでさえ、神はあわれみ深くお愛しになることを、このたとえの中で教えておられる。わたしたちは、彼らをさがし出して、神につれもどさなければならない。……」

この譬は、家庭の者に対する教訓である。家庭では、よく家族の者の魂がおろそかに扱われがちである。その中には、神から遠ざかっているものもあろう。ところが、こうして神からゆだねられたたまもの一人でさえ、家族の中で見失うことがないように気をつけているものはごくまれである。」（キリストの実物教訓 173, 174）

b. 譬の中で、失われた銀貨を探すために、主婦はどの二つの働きが要求されましたか（ルカ 15:8（下句））。

「たとえの中の女は、なくなった銀貨をけんめいになってさがした。……ただ一枚だけがなくなったのであるが、彼女は発見するまで捜すことをやめなかった。そのように家庭の中に、もしも一人でも神から離れたものがあるならば、その回復のために全力を尽くさなければならない。……深く自分を反省して、日常の行為を吟味しなければならない。その魂の悔い改めの妨げになるものがなかったか、彼の取り扱いにあやまちがなかったかを考えなければならない。」（同上）

c. 主は現代の放蕩息子や放蕩娘をどのように取り扱われますか（ルカ 15:11-32）。わたしたちは兄の態度からどの教訓を学ぶべきですか。

「あなたが、自分は、ただ天の父の愛のみによって救われた罪人であることを認めたときに、罪になやむ人びとをやさしくあわれむことができる。……利己という氷が、あなたの心からとけ去って、始めて、神の心と一つになり、失われた者の救いを神と共に喜ぶようになるのである。……」

神が、〔あなたの兄弟〕を子としてお認めになるのであるから、彼はあなたと最も密接な関係によって結ばれている。このような関係を拒むならば、それはあなたが神の家族の子ではなくて、雇い人であることを示しているのである。」（同上 190, 191）

5. 福音の牧師の働き

- a. 福音の牧師の主な働きを定義しなさい (コリント第二 12:10; テモテ第二 3:10, 11; 4:5)。

「福音を伝える牧師の仕事は、『神の中に世々隠されていた奥義にあずかる務がどんなものであるかを、明らかに示す』ことである (エペソ 3:9)。もしこの働きに携わる者が、最も自己犠牲の少ないことを選んで、説教に満足し、個人的な伝道の働きをだれか他の人に任せてしまうようなら、彼の働きは神に受け入れられるものとはならない。キリストが身代わりとなられた魂は、正しく導かれた個人的な接触がないために滅びようとしている。牧師職に携わりながら、群れの世話に求められる個人的な働きを快くしようとしない者は、その召しを誤解しているのである。

真の羊飼いの精神は、自分自身を忘れる精神である。……みことばを説教し、人々の家庭で個人的な伝道を行うことにより、彼は人々の必要や、悲しみや、試みを学ぶ。そして、重荷を負って下さる偉大な主と協力して、彼らの苦しみを共にし、失望を慰め、魂の飢えを和らげ、彼らの心を神へと導く。」(患難から栄光へ下巻 226, 227)

- b. 伝道の働きにおいて他に重要不可欠な資質は何ですか (ヤコブ 3:1, 2, 13-18)。

「羊飼いは教会の中で、仲たがひ、辛辣、ねたみ、嫉妬に対処するよう求められるとき、それを上手にさばく仕事が彼に負わされている。彼は、物事をきちんと整えるために、キリストのみ霊によって働かねばならない。」(同上 226)

個人的な復習問題

- a. キリストの愛が迫るとは、どういう意味ですか。
b. 福音の牧師はどの種類の教育が必要ですか。それはなぜですか。
c. 囲いから羊がいなくなったとき、キリストの真の共労者は、どのようにふるまい、どのように感じますか。
d. 福音伝道において、しばしばどの資質が要求されていることを忘れますか。
e. 福音伝道において、どの機転と知恵が重要不可欠ですか。

個人的な奉仕

「わたしの隣り人とはだれのことですか」(ルカ 10:29)

「わたしたちの隣人は、単に自分の教会の一員であるとか、わたしたちと信仰を同じくする者とかいうのではないことを〔キリストは〕お教えになった。そこには、人種、皮膚の色、または階級の差別がない。わたしたちの隣人とは、わたしたちの助けを要するすべての人をいうのである。」(キリストの実物教訓 353)

推奨文献：各時代の希望中巻 299-309

日曜日

11月9日

1. 実際の出来事

a. 強盗が出没する場所を通っていた人に何が起こりましたか (ルカ 10:30)。

「エルサレムからエリコへ旅をするには、旅人はユダヤの荒野の場所を通らねばならなかった。道は荒れはてた岩の多い谷間へくだっているが、そこは強盗が出没し、しばしば暴力がふるわれる場所であつた。」(各時代の希望中巻 302)

b. 祭司はその道に來たとき、どうしましたか (ルカ 10:31)。

c. レビ人はどうしましたか (ルカ 10:32)。

「祭司もレビ人もともに聖職にあつて、聖書の解説者であると自称していた。彼らは民に対して神を代表する者として特にえらばれた階級であつた。彼らは、人類に対する神の大いなる愛を理解させるように、『無知な迷っている人々を、思いやる』はずだった (ヘブル 5:2)。」(同上 302, 303)

2. 正しい原則が例証される

a. サマリヤ人が苦しんでいる人を見たとき、彼はどうしましたか (ルカ 10:33, 34)。

「あるサマリヤ人が、旅の途中、この被害者のいるところを通りかかったが、彼はその人を見たとき同情した。彼はこの見知らない人がユダヤ人であるか、それとも異邦人であるかを問題にしなかった。もしそれがユダヤ人だったら、そして、立場がぎくぐくだったら、その男は顔につばをはきかけ、軽蔑して行ってしまうことを、サマリヤ人はよく知っていた。しかしそうだからといって、彼はちゅうちょしなかった。彼はまたこの場所にぐずぐずしていたら、自分自身暴力を受ける危険があることをかえりみなかった。自分の目の前に困って苦しんでいるひとりの人間がいるということが重大であった。彼はその男に着せるために自分の上衣をぬいだ。その傷ついた男をいやし、元気づけるために、彼は、自分の旅行用の油と酒を用いた。彼は、その男を自分の家畜にのせ、揺れて余計痛むようなことがないように、一様な歩調でゆっくり歩いて行った。」(各時代の希望中巻 304, 306)

b. サマリヤ人は他に何をしましたか (ルカ 10:34 (下句) , 35)。

「彼は、その男を宿屋に連れて行って、一晩じゅう看護し、やさしく見守った。朝になって、病人がよくなったので、サマリヤ人は出かけることにした。しかしそうする前に、彼はその男の世話を宿屋の主人にたのみ、その費用を支払い、またその男のためにお金まで預け、それでもまだ満足しないで、もっと入用があった場合の用意までして、主人に、『この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います』と言った (ルカ 10:35)。」(同上 306)

c. 最後に、イエスは律法学者にどの質問をなさいましたか。そしてどのようにその律法学者は自分自身の質問に答えるように導かれましたか (ルカ 10:36, 37)。

「このサマリヤ人は、『自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ』という戒めを実行して、彼を非難した人びとよりも、彼の方がたかいことを示した。……このサマリヤ人はキリストを代表している。……彼は、わたしたちが、傷ついて死にひんしていたときに、わたしたちをあわれんでくださった。……彼は、わたしたちの哀れむべき悲惨な姿を見て、わたしたちの事情を引き受け、人類とご自身とを一つに結びつけられたのである。主は、敵を救うためになくなられたのである。主は、ご自分を殺す者のために祈られた。」(キリストの実物教訓 359)

3. わたしたちの隣人がだれかを明らかにされる

a. どの命令がキリスト教の基本的な原則となりましたか（ルカ 10:37（下句））。

「真理は、わたしたちの実践によって、世界に大きな感化を及ぼさなければならぬのに、まだ、ほとんど感化を及ぼしていない。単なる信仰の告白は、世に満ちているが、それらにはなんの価値もない。わたしたちは、キリストのしもべであると主張し、神のことばの中の真理を全部信じるという試みでも、信じるのがわたしたちの日常生活のなかで行なわれていないならば、隣人に対してなんの役にも立たない。どんなにりっぱなことを口で言ってみても、わたしたちが、クリスチャンでないならば、自分を救うことも、同胞を救うこともできない。わたしたちの言うすべてのことばよりも、一つの正しい模範が、世界を益するのである。

キリストの働きは、利己的な行ないによってすることはできない。キリストの働きは、圧迫された者と、貧しい者を救う働きである。キリストの弟子であるというものの心のなかには、キリストのあわれみの情がなければならない。すなわち、キリストが命をささげてまで救おうとなさったほど高く評価された人びとにたいして、深い愛をもたなければならない。これらの魂は、わたしたちが神にささげるとどんな供え物よりも、はるかに尊いのである。」（キリストの実物教訓 361）

b. 人種、国籍、社会階級間の和解は、どのようにしてキリストの十字架によって達成されましたか（エペソ 2:13-16）。

「キリストが住まわれる心に愛が欠乏することはない。神がまずわたしたちを愛してくださったために、わたしたちも神を愛するのであるならば、わたしたちは、キリストが命をおすてになってまで愛されたすべての人びとを愛するようになる。神と接触していながら、人間と接触しないということとはできない。宇宙の王座にすわっておられるキリストのなかには、神性と人性が結合しているのである。キリストに連なるものは、愛という金の鎖によって、同胞と結ばれているのである。……

神は、国籍、人種、階級の差別をなさらない。神は、全人類の創造者である。すべての人びとは、創造によって、一つの家族であり、贖罪によって、一つなのである。キリストは、あらゆるへだての壁をこわす……ためにこられた。

いかに宗教的信仰の相違があろうと、人類の苦しみの叫びに耳を傾けて、それに答えなければならない。宗教上の相違が原因となって悪感情が存在するところでは、個人的奉仕の行ないをすることによって、多くのよい結果が生じる。愛の奉仕は偏見をくだき、魂を神に導くのである。」（同上 362-364）

4. 「ただで受けたのだから、ただで与えるがよい」

- a. キリストの働きの中で、わたしたちはどのように喜ぶ理由と泣く理由を見出しますか（ローマ 12:15）。

「わたしたちは、他の人びとの悲しみや困難や苦難をこちらから早く察して、貴賤（きせん）貧富の別なく、人びとと共に喜びも苦しみも味わわなければならない。『ただで受けたのだから、ただで与えるがよい』とキリストは言われるのである（マタイ 10:8）。わたしたちの回りには、試練に会って、同情のことばと援助の手を要する気の毒な魂がいる。同情と助けの必要なやもめたちもいる。また、キリストが神から託されたものとして受けるように弟子たちにお命じになった孤児たちもいる。このような人びとは、とかく見過ごしにされがちである。彼らは、みすばらしく、粗野で、みたところ少しも好ましくない人びとのようであるかもしれないが、彼らも神の所有なのである。彼らも価をもって買われたのであって、神の目の前には、わたしたちと同じように価値のあるものである。彼らは、神の大家族の一員であるから、クリスチャンは管理者として、彼らに対する責任を負っているのである。『わたしは、彼らの魂をあなたの手に求める』と神は言われるのである。」（キリストの実物教訓 364）

- b. 言葉では足りないとき、わたしたちはどのように多くの人々に手を差し伸べることができますか（ヤコブ 2:15, 16）。

「罪ほどはなはだしく悪いものはないが、罪人をあわれんで助けるのは、わたしたちの務めである。……心のかわきをかくしている者が多い。そうした人びとには、やさしいことばや親切な心づかいを示すことによって、大きな助けを与えることができる。また、非常に欠乏のなかにありながら、それを知らないでいるものもある。彼らは、自分の魂の恐るべき欠乏を自覚しない。深く罪に沈んで、永遠の世界の實在感を失い、神のかたちを失い、救うべき魂のあることさえわからない人びとが無数にいたのである。彼らは、神を信じなければ、人をも信用しない。この人びとには、おのれを忘れた親切な行為によってのみ近づくことができる。……彼らがわたしたちの無我の愛の証拠を見るときに、キリストの愛を信じるのがやさしくなるのである。

あやまちにおちいり、はじと愚かさを感じている人びとが多い。彼らは、自分たちの過失や誤りをながめて、絶望するばかりになる。わたしたちは、このような魂をおろそかにしてはならない。流れに逆らって泳ぐものは、水流の全勢力と戦わなければならない。沈みゆくベテロに長兄イエスの手がさしのべられたように、このような人に助けの手さしのべることにしよう。希望に満ちたことば、確信をうながし、愛をめざめさせることばを語ることにしよう。」（同上 364, 365）

5. 実際の結果を得る

- a. わたしたちは罪に病んだ人々が神と和解するために、どのように助けることができますか (イザヤ 27:5)。

「あなたに兄弟の愛が必要であったように、心の病いになやむ兄弟が、あなたを必要としている。彼は自分と同じように弱かったことのある人の経験を必要とし、彼に同情と助けを与え得る人を必要としている。わたしたちが、自分自身の弱さを知っているということは、困りはてている者を助けるのに役立つはずである。……

人間の思いと心と魂とが生まれつきのままの性質に勝利するのは、キリストとの交わり、生きた救い主と個人的に接触することによってである。さまよい出た者にむかつては、全能の手が彼をささえていること、またキリストがその無限の人性によって彼をあわれんでおられることを語らなければならない。(キリストの実物教訓 365)

- b. 苦しむ人々のためのわたしたちの個人的な奉仕は、神のみ国のためにするわたしたちの準備にどれほど影響しますか (ダニエル 12:3; ゼカリヤ 3:7)。

「わたしたちが、この仕事を忠実にするか否かに、他の人びとの幸福ばかりでなくて、わたしたち自身の永遠の運命がかかっている。キリストは、すべて向上することを望む者を高めてご自分との交わりに入れようとしておられる。これは、キリストが父と一つであられるように、わたしたちをキリストと一つにするためである。……神は、わたしたちのうちに、神の品性の特徴である同情とやさしさと愛をはぐくもうと望んでおられる。この奉仕の仕事を受け入れることによって、わたしたちは、キリストの学校にはいり、神の宮廷にふさわしい者とされる。」(同上 366)

個人的な復習問題

1. サマリヤ人のどの行動がクリスチャンの精神を表していますか。
2. キリストの許へ来た律法学者は最終的に何を悟りましたか。
3. キリスト教は、この世の諸宗教の中で、どのように他に類を見ないのですか。
4. 不信者に説くことのできる最高に力強い説教を述べなさい。
5. 人々をキリストに引き付けるカギとなる要素をあげなさい。

一人の魂の聴衆—ニコデモ

「だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない。」(ヨハネ 3:3)

「上げられたへびに言及して、キリストがニコデモの前に提示しておられる出来事を考えなさい。」(エレン・G・ホワイト 1888 年原稿 149)

推奨文献：各時代の希望上巻 197-209

日曜日

11 月 16 日

1. 個人的な会談

- a. ニコデモはイエスの言葉を聞いた後、このお方と話そうと決心しました。ニコデモとはだれですか。なぜ、彼は夜に来たのですか(ヨハネ 3:1, 2 (上句))。

「イエスのことばをきいてから、ニコデモはメシヤに関する預言を熱心に研究した。……彼はそこに天来の力のふしぎなあらわれを見た。彼は救い主が貧しい人々をいたわり、病人をいやしておられるのを見た。彼は人々のうれしい顔つきを見、賛美の声を聞いた。そしてナザレのイエスが神からつかわれたお方であることを、彼は疑うことができなかった。

ニコデモはイエスとの面会を非常に望んだが、公然とイエスに会うことをちゅうちょした。ユダヤ人の役人が、まだほとんど名も知られていない一教師に共鳴していることを公然と表明することは不面目なことだった。イエスを たずねたということがもしサンヒドリンに知られたら、彼らの嘲笑と非難とを招くであろう。彼は、自分が公然とたずねるとほかの者たちがまねをするからという理由を口実にして、ひそかにイエスに面会しようと決心した。特別な調査によって、オリブ山にひっこんでおられる救い主の居所を知ると、彼は町が眠りのうちに静まるまで待ち、それからイエスをたずねて行った。」(各時代の希望上巻 198, 199)

「ニコデモはキリストの奇跡を目撃していた。そして彼は主に夜会いに来た。なぜなら、彼は公にこのお方のもとへ来る道徳的な勇気がなかったからである。それによって、祭司やパリサイ人の批判をかき立てることになるはずであった。」(エレン・G・ホワイト 1888 年原稿 1311)

2. 神学的な議論ではなく生まれかわり

a. ニコデモがイエスがひっこんでおられた場所でこのお方を見つけるや否や、何と言いましたか(ヨハネ 3:2 (下旬))。

「ニコデモは、主と議論しようと思ってやってきたのであったが、イエスは真理の根本原則をはっきりとお示しになった。主はニコデモにこう言われた、あなたにとって必要なのは、理論的な知識よりもむしろ霊的な生れかわりである。あなたは、好奇心を満足させるより、新しい心を持つ必要がある。あなたは天の事物を理解できる前に上からの新しいいのちを受けなくてはならない。この変化が起って一切のことが新しくなるまでは、わたしの権威やわたしの使命についてわたしと議論しても、その結果は、あなたにとって救いの益とはならないと。

ニコデモは、バプテスマのヨハネが悔い改めとバプテスマについて説き、聖霊をもってバプテスマを授けられるおかたを人々にさし示すのを見聞きしていた。彼自身も、ユダヤ人の間に霊性が欠けており、彼らが頑迷さと世俗的野心に大いに支配されていることを感じていた。彼はメシヤが来臨されるとき、物事の状態がもっとよくなるようにと望んでいた。しかしバプテスマのヨハネの鋭いメッセージは、彼の心のうちに罪の自覚を起さなかった。彼は厳格なパリサイ人で、自分の善行を誇っていた。彼は、慈善心と、宮の奉仕を維持するために惜しまず献金することによって世間から尊敬されていたので、神の恵みは確実であると思っていた。」(各時代の希望上巻 199, 200)

b. 主はニコデモが神学的な議論よりも生まれかわりを必要としていることをご存知であつたので、どの答えをもって彼を驚かされましたか(ヨハネ 3:3)。

「イエスは、新しく生れるという表現をお用いになったが、それはニコデモにとって全然聞きなれないことばではなかった。異教からイスラエルの信仰に改宗した者は、よく生れたばかりの子供にたとえられた。だから彼はキリストのことばを文字通りの意味に受け取るべきではないことをみとめていたにちがいない。しかし彼は、イスラエル人として生れたおかげで、自分は必ず神のみ国にはいるものと考えていた。彼は自分が変化する必要があると思わなかった。だから救い主のことばに驚いたのである。」(同上 200)

3. 心に及ぶ聖霊の働き

a. ニコデモはどのような皮肉な質問でキリストの言葉を退けようとしたか (ヨハネ 3:4)。

b. ニコデモの無益な議論を無視して、イエスはどのようにご自分の要点を強調なさいましたか (ヨハネ 3:5-7)。

「心は生れながらにして悪く、『だれが汚れたもののうちから清いものを出すことができようか、ひとりもない』のである (ヨブ記 14:4)。どんな人間の発明によっても、罪を犯している魂を救う道をみいだすことはできない。『肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである。』『悪い思い、すなわち、殺人、姦淫 (かんいん)、不品行、盗み、偽証、誹 (そし) りは、心の中から出てくるのである』 (ローマ 8:7、マタイ 15:19)。流れが清くなるには、心の泉がきよめられなければならない。自分で律法を守る行為によって天国にはいるとする者は不可能なことを試みているのである。律法的な宗教敬虔の形だけを持っている者には安全がない。クリスチャンの生活は古いものを修正したり改良したりすることではなくて、性質が生れ変ることである。自我と罪に対する死があり、まったく新しいいのちがある。この変化は聖霊の効果的な働きによつてのみ行われる。」 (各時代の希望上巻 201, 202)

c. イエスはどのように聖霊の働きを説明なさいましたか (ヨハネ 3:8)。

「風は木々のこずえに音をたて、葉や草花をさらさらと鳴らせるが、目に見えないので、だれも風がどこからきてどこへ行くかを知らない。心に働く聖霊の働きもこれと同じである。それは、風の動きと同じように、説明することができない。人は自分が信仰にはいった正確な日時と場所を言ったり、改心の過程における事情を始めから終りまで説明したりすることができないかも知れない。だがそのことは、彼が信仰にはいっていないという証拠にはならない。風のように目に見えない力によつて、キリストはたえず心に働きかけておられる。すこしずつ、おそらく本人の気がつかないうちに、魂をキリストへひきよせるのに役立つ印象が与えられているのである。こうした印象は、キリストについて瞑想したり、聖書を読んだり、あるいは説教者のことばをきいたりすることによつて与えられるかもしれない。」 (同上 202)

4. 「わたしはまたわが霊をあなたがたのうちに置いて」

- a. ニコデモはイエスの言葉に感銘を受けましたが、完全には理解していませんでした。それから、彼は何と尋ねましたか（ヨハネ 3:9）。イエスは何とお答えになりましたか（10-13 節）。

「イエスが宮から追い出されたユダヤ人は、アブラハムの子であると主張していたが、彼らは、キリストのうちにあらわされている神の栄光に耐えることができなかったのもので、救い主の前から逃げ出した。こうして彼らは、神の恵みによって宮の聖なる奉仕にあずかるのにふさわしい者ではないことを立証した。彼らは聖潔の外観を保つのに熱心だったが、心の聖潔をなおざりにした。彼らは律法の文字についてやかましかったが、絶えずその精神を破っていた。彼らの大きな必要は、キリストがニコデモに説明された変化すなわち霊的再生であり、罪からのきよめであり、知識と聖潔とを新たにされることであった。」（各時代の希望上巻 204）

- b. ニコデモは今、どの聖句を理解し始めましたか（詩篇 51:10; イザヤ 64:6; エゼキエル 36:26, 27）。

「[イザヤ 64:6; 詩篇 51:10; エゼキエル 36:26, 27 引用]。ニコデモはこれらの聖句をくもった心で読んでいた。だが今彼はその意味をさとりはじめた。律法を外面的な生活にあてはめ、どんなに厳格に文字通りこれを守っても、だれも天の王国にはいる資格はないということを彼はさとった。人間の目からみれば、彼の生活は正しく尊敬すべきものであった。だがキリストの前に出ると、彼は、自分の心が清潔でなく、自分の生活が聖潔でないことを感じた。

ニコデモはだんだんキリストにひきつけられた。救い主が新生について説明された時、彼はこの変化が自分のうちに行なわれるようにと切望した。」（同上 205）

- c. キリストはどの象徴をもって、ご自分の使命をニコデモに明白にされましたか（ヨハネ 3:14-16）。

5. 新しい命

- a. ニコデモがどのようにしたら新生がなし遂げられるかを知りたいと思っていたときに、イエスは何と言われましたか (ヨハネ 3:17-21)。

「上げられた蛇 (へび) の象徴によって、彼は救い主の使命をはっきりさとった。イスラエルの民が火の蛇のかみ傷のために死にかけていた時、神はモーセに青銅の蛇を作って会衆のまん中に高くかかげるように命じられた。そして蛇を仰ぎ見る者はみな生きられるという布告が陣営中に伝えられた。人々は、蛇そのものには彼らを助ける力がないことをよく知っていた。それはキリストの象徴だった。滅ぼす蛇の形に作られた像が彼らのいやしのためにあげられたように、『罪の肉の様』につくられたおかたが彼らのあがないの主となられるのであった (ローマ 8:3)。イスラエル人の多くは、いけにえの儀式そのものに彼らを罪から解放する力があると思っていた。青銅の蛇に価値がなかったように、いけにえの儀式そのものにも価値がないことを彼らに教えようと神は望まれた。それは彼らの心を救い主に向けさせるのであった。きずをいやされるためであろうと、罪をゆるされるためであろうと、彼らは神の賜物キリストへの信仰をあらわす以外に自分では何もできなかった。彼らは仰いで見て、生きるものであった。

十字架から輝いている光は神の愛をあらわしている。神の愛はわれわれをみもとにひきよせている。このひきよせる力にさからわなければ、われわれは救い主を十字架につけた罪を悔いて十字架の下にみちびかれる。その時神のみたまは、信仰を通して魂に新しいいのちを生じさせる。」(同上 205, 208)

- b. わたしたちはどのようにして救われますか (テトス 3:4-6)。

個人的な復習問題

1. 宗教について議論したいと望む多くの人が必要としているものは何ですか。
2. イエスは、どのようにニコデモの言葉よりは、むしろ彼の必要に焦点を合わせられましたか
3. キリストはなぜ聖霊の働きを説明するのに、風をお用いになったのですか。
4. キリストはご自分の使命をニコデモに説明するために、どの象徴をお用いになりましたか。
5. 新生の奥義を、イエスはどのようにニコデモに説明なさいましたか。

一人の魂の聴衆—「サマリヤの女」

「ユダヤ人はサマリヤ人と交際していなかった」(ヨハネ 4:9)

「愛によってのみ、愛は生じる。」(キリストを映して 23)

推奨文献：各時代の希望上巻 217-234

日曜日

11月23日

1. ヤコブの井戸で

- a. イエスが旅行中にすわって休んでおられたとき、何が起こりましたか。弟子たちはどこにいましたか(ヨハネ 4:3-7 (上句))。
- b. もしイエスが水を汲むのを手伝おうとおっしゃったなら、その申し出は受け入れられたでしょうか(ヨハネ 3:8)。彼女の偏見を取り除くために、イエスは何をなさいましたか(ヨハネ 4:7 (下句))。非常に驚いて、彼女は何と言いましたか(同上 4:9)。

「ユダヤ人とサマリヤ人との間に憎しみがあるために、この女はイエスに親切を申し出ることができなかった。しかし救い主はこの人の心にはいる鍵をみつけようとしておられたので、神の愛から生じる機知をもって、恩恵を提供するのではなくかえってこれを求められた。親切を提供しようとすれば、ことわられたかもしれなかった。だが信頼心は信頼心を呼び起す。」(各時代の希望上巻 219)

宗教上の相違が原因となって悪感情が存在するところでは、個人的奉仕の行ないをすることによって、多くのよい結果が生じる。愛の奉仕は偏見をくだき、魂を神に導くのである。」(キリストの実物教訓 364)

2. イエスはどのように女の好奇心を目覚めさせられたか

- a. キリストはどのように女の好奇心を目覚めさせ、彼女の注意を何かもっと重要なことに向けさせようとなさいましたか (ヨハネ 4:10)。

「女は キリストのことばを理解しなかったが、その厳粛な意味を感じた。」(各時代の希望上巻 220)

- b. イエスがヤコブの井戸のことを語っておられるのだと思って、彼女は何と言いましたか (ヨハネ 4:11, 12)。

「〔サマリヤの女〕は、目の前の人を、歩き疲れたほこりだらけの旅人にしか思わなかった。彼女は、心の中で、イエスを尊敬すべき父祖ヤコブとくらべた。(同上 220)

- c. 彼女は自分自身の質問に対する答えを受け入れる準備がまだできていなかったために、イエスはさらにどのようにして彼女の好奇心を起こさせようとなさいましたか (ヨハネ 4:13, 14)。

「イエスは、一杯のいのちの水を受けるだけで十分であるという意味のことは言われなかった。キリストの愛を味わう者はたえずもっと求める。だがそれ以外のものは何も求めない。彼には世の富も栄えも楽しみも、魅力がない。彼の心は、『もっとあなたを』とたえず叫びつづける。魂に必要なをお示しになるおかたが、その飢えとかわきを満たそうと待っておられる。人間的な手段や人間にたよるときにみな失敗する。水槽はからになり、水たまりは かわく。だがあがない主は尽きない泉である。飲んででも飲んででも新しい水がいつでもわいている。キリストを内住させている人は、自分のうちに祝福の泉、永遠のいのちに至る水のわきあがる泉を持っている (ヨハネ 14:4)。この泉から、彼は自分のすべての必要を満たすのに十分な力と恵みとをくむことができる。

イエスが生ける水のことを話されると、女は驚きのまなざしでイエスを見た。イエスは彼女の興味を起し、ご自分が話された賜物をほしいという気持ちをめざめさせられたのだった。」(同上 221, 222)

3. イエスの偉大な気転

- a. サマリヤの女は、イエスが単なる水より何かよいものを差し出して下さっていることを悟ったとき、何と言いましたか（ヨハネ 4:15）。
- b. 彼女は何を認めるように要求されましたか。イエスは彼女が秘密にしておこうとした自分の生涯の事実を持ち出されたときに、どのように気転を働かされましたか（ヨハネ 4:16-18）。

「イエスが与えようと望んでおられる賜物をこの魂が受けることができる前に、彼女は自分の罪と救い主をみつめねばならない。イエスは、『あなたの夫を呼びに行つて、ここに連れてきなさい』と言われる。彼女は、『わたしには夫はありません』と答えた。こうして彼女はその方面の質問を一切封じようとした。だが救い主は続けて、『夫がないと言ったのは、もっともだ。あなたには五人の夫があつたが、今のはあなたの夫ではない。あなたの言葉のとおりである』と言われた（ヨハネ 4:16-18）。

これを聞いた女はふるえた。神秘の手が彼女の経歴のページを開き、永遠にかくしておきたいと望んでいたことを明るみに出そうとしていた。自分の一生の秘密を読みとることができるとは一体このおかたはどなただろう。彼女の心には、現在かくされていることがすべて明らかにされる来世すなわち未来のさばきについての考えが浮んだ。その光の中に、良心がめざめた。」（各時代の希望上巻 222）

- c. 彼女はなおもどのように自分の過去と現在の生活についてのあらゆる言及を避けようとしたか（ヨハネ 4:19）。彼女はどのようにして会話の方向をまげようとしたか（20 節）。

「イエスはこの女が話題を自分の好む方向に持って行こうとするのを忍耐強くおゆるしになった。そうしている間に、イエスは彼女の心に真理をもう一度うえつける機会を注意深く待たれた。女は『わたしたちの先祖は、この山で礼拝をしたのですが、あなたがたは礼拝すべき場所は、エルサレムにあると言っています』と言った（ヨハネ 4:20）。ちょうど目に見えるところにゲリジム山があつた。その神殿は破壊されて、祭壇だけが残っていた。礼拝の場所は、ユダヤ人とサマリヤ人との間の論争のまゝとなっていた。」（同上 223）

4. イエスは国家的な偏見を示されなかった

- a. サマリヤに対して何の偏見も持っておられないことを示して、イエスは何と言われましたか (ヨハネ 4:21-24)。

「イエスはサマリヤ人に対してユダヤ人の偏見を持っておられないことをすでにお示しになった。いま彼はユダヤ人に対するサマリヤ人の偏見をうち破ろうとされた。イエスは、サマリヤ人の信仰が偶像礼拝によって墮落したことを指摘される一方では、あがないの大真理がユダヤ人に委託され、ユダヤ人の中からメシヤが現われることを言明された。聖書を通して、彼らは神のご品性と神の統治の原則とについてはっきり示されていた。イエスのご自分を、神がご自身についての知識をお与えになったユダヤ人と同類におかれた。

イエスは、聞き手の思いを、形式や儀式の問題、そしてまた論争の問題から高めようと望まれた。」(各時代の希望上巻 224)

- b. この女はどのようにたくみにイエスが本当にメシヤかどうかを探り出そうとしましたか (ヨハネ 4:25, 26)。

「人は、聖なる山や聖なる宮を求めることによって天とのまじわりにはいれるのではない。宗教は外面的な形式や儀式に限定されるのではない。神から出ている宗教だけが神へいたる宗教である。神に正しく仕えるためには、神のみたまによって生れなければならない。……

純潔なイエスの前にいることによって彼女は自分の罪を責められたが、イエスは譴責のことばをひとこともお語りにならず、ただ魂を新たにすることのできる恵みについて語られた。彼女はイエスがどういうおかたであるかについて、いくらか確信を持ちはじめた。このおかたが長い間待望されていたメシヤではないだろうかという疑問が心の中に起った。」(同上 224, 225)

「救い主はサマリヤの女にいのちの水を提供された時と同じ働きを今もなおつづけておられる。キリストの弟子と自称する人たちが、社会から見捨てられた人々をさげすみ、いやがるようなことがあるかもしれない。だが生れや国籍による事情も、社会的な身分も、イエスの愛を人の子らから離れさせることはできない。」(同上 232)

5. 御父はこのようにご自分を礼拝する者を求めておられる

a. 大いなる喜びに満たされて、サマリヤの女が完全に確信した伝道者として行動したとき、何が起こりましたか（ヨハネ 4:28-30）。

「神に正しく仕えるためには、神のみたまによって生れなければならない。みたまは心をきよめ、思いを新たにし、神を知り愛する新しい能力をわれわれに与える。それは神のすべてのご要求によることで従う心をわれわれに与える。これが真の礼拝である。それは聖霊の働きの実である。みたまによって、すべての真実な祈りはことばとなりこのような祈りは神に受け入れられる。魂が神を追い求めるところにはどこでもみたまの働きがあらわれ、神はその魂にご自身をあらわされる。神はこのような礼拝者を求めておられる。神は彼らを受け入れて、ご自分の息子娘にしようと待っておられる。」（各時代の希望上 225）

「女はキリストのみことばに聞き入っている時よろこびに満たされた。そのすばらしい啓示はほとんど圧倒的であった。彼女は水がめを残して、イエスのことばをほかの人たちに伝えるために町へもどった。イエスはなぜ彼女が立ち去ったかをご存じだった。自分の水がめを残していったことが、間違いの余地なく、イエスの言葉の効果を物語っていた。生ける水を手に入れることが彼女の魂の熱心な願いであった。彼女は井戸へきた用事を忘れ、イエスのかわきをいやしてさしあげるつもりだったことも忘れた。よろこびにあふれる心をもって、彼女は自分が受けたとうとい光をほかの人たちに与えるために道を急いだ。」（同上 228）

個人的な復習問題

1. イエスはユダヤ人とサマリヤ人の間に存在していた偏見を、どのように克服しようとされましたか。
2. キリストは生ける水についてサマリヤの女に何を説明なさいましたか。
3. 福音を分け与えるとき、なぜ気転がそれほど重要なのですか。
4. わたしたちはみな偏見の両面の性質について、何を悟る必要がありますか。
5. 彼女は完全に確信するや否や、何をしましたか。

第一安息日献金

アメリカ合衆国カリフォルニア州ロックリンの礼拝堂のために

アメリカ合衆国は人口 3 億 1700 万人以上を数え、50 州と 1 連邦区からなる連邦共和国です。2012 年の調査によりますと、成人の 73%が自らキリスト教だと申告し、そのうちプロテスタントが 51.3%、ローマカトリックが 23.9%で大きな教派となっています。



アメリカ合衆国は他の西洋諸国と同様に、2 世紀以上も宗教の自由のとりでとなってきましたが、だんだん宗教的ではなくなってきました。最近の調査では、30 歳未満のアメリカ人の間では急速に無宗教が広がっていることが示されています。長い間、わたしたちの運動の本部は、もっとも人口の多いカリフォルニアにおかれてきました。

20 年以上もロックリンは広いサクラメント地域の東部を拠点とした奉仕活動プログラムにかかわってきました。この教会の先駆者たちは神のみ働きの前進のために生涯を捧げ、今日この地域では教会員が定着し、健康および料理教室、霊的なセミナーなどを通して福音を伝播しています。最近ではこれらのプログラムによって多くの訪問者や定期的出席者が集まっています。現在のところ、教会はこれらの定期的な集会のために場所を借りています。カリフォルニアのこの地域においてもっと多くの恒常的な証人を定着させることを考え、この教会では自分たちの建物を所有することを計画しています。教会員は建物の建築にしろ購入にしろ喜んで援助したいと思っていますが、この地域の生活コストが高いため、自分たちの力では完成することができません。

世界中の兄弟姉妹から第一安息日献金の事業が助けを求めてきたとき、主はロックリン教会のメンバーの心を動かし、惜しみなく捧げてきました。今回は彼らが皆さんの助けを必要としています。

わたしたちの愛する救い主イエス・キリストとロックリン教会のために、世界中の兄弟姉妹の皆さんが惜しみなくこの建設事業のために捧げてくださるようお願いいたします。

世界総会北アメリカ地域書記

救い主を求める

「きょう、救がこの家に来た。」(ルカ 19:9)

「この取税人の頭のうちに、より良い生活にあこがれる思いが呼び覚まされた。」
(争闘と勇気 301)

推奨文献：各時代の希望中巻 372-379

日曜日

11 月 30 日

1. 取税人の頭ザアカイ

- a. ザアカイがイエスにお目にかかりたかったとき、どうしましたか (ルカ 19:3, 4)。
どのような確信が彼をとらえましたか。

「しかしこの富める税関役人のザアカイは、それほど冷酷な人間ではなかった。その世俗的で高慢な外観の下には、天来の感化力に動かされやすい心があった。ザアカイは、イエスのことをきいていた。排斥されている階級の人々に対して親切と礼儀のある態度をとられたおかたのうわさが遠く広くひろがっていた。この取税人のかしらの中には、もっとよい人生をあこがれる思いがあった。エリコからわずか数マイル離れたヨルダン川で、バプテスマのヨハネが福音を説いたとき、ザアカイは悔い改めへの呼びかけをきいた。『きまっているもの以上に取り立ててはいけない』という取税人たちに対する教えは、外面的には無視されたが、それはザアカイの心に深い感銘を与えていた (ルカ 3:13)。彼は聖書を知っていて、自分の行為がまちがっていることを自覚していた。いま彼は大教師イエスから出たものといわれているこのことばを聞いて、自分が神の前に罪人であることをかんじた。しかし彼がイエスについて聞いたことが、彼の心に望みの火をともした。」(各時代の希望中巻 373)

- b. わたしたちはすべての伝道努力において、いつもどの事実を心に留めているべきですか (ルカ 18:27)。

「悔い改め、すなわち生活の改革は、〔ザアカイ〕にさえ可能なのだ。」(同上)

2. 熱心な召集

- a. ザアカイがいちじく桑の木で待っているところへイエスが到着されたとき、この方はどの言葉をもって彼をお呼びになりましたか (ルカ 19:5)。

「祭司たちとラビたちのさわがしい声や群衆の歓迎の叫び声をこえて、この取税人のかしらの無言の願いがイエスの心に語りかけた。突然、ちょうどこのいちじく桑の木の下で、一群がたちどまり、その前後の群衆も動かなくなると、ひとりのおかたが心の底まで読み通すような目つきをして上をごらんになる。『ザアカイよ、急いで降りてきなさい。きょう、あなたの家に泊まることにしているから』とのことばを聞くと、木の上の男はほとんど自分の耳を疑う (ルカ 19:5)。」(各時代の希望中巻 374)

- b. ザアカイがイエスにお会いし、自分の家に案内し始めたとき、ラビたちは嘲笑して何と言いましたか (ルカ 19:6, 7)。

「群衆が道をあけると、ザアカイは、夢心地で歩きながら、わが家の方へ道案内をする。しかしラビたちはにがい顔をして、不満とあざけりのうちに、『彼は罪人の家にはいつて客となった』とつぶやく (ルカ 19:7)。

ザアカイは、自分のような無価値な者に目をとめられたキリストの愛とへりくだりに圧倒され、驚いて口もきけなかった。いまこの新しくみいだした主に対する愛と忠誠心が彼の口を開かせる。彼は自分の告白と悔い改めを公表しようとする。」(同上 375, 376)

- c. 取税人の間で、どのような徒党を組んでいましたか。

「取税人たちは徒党を組んでいたもので、彼らは民衆を圧迫し、お互に自分たちの詐欺行為を支持し合うことができた。彼らは、搾取するにあたって、ほとんど全国的な慣例となっていたことを実行しているにすぎなかった。彼らを軽蔑していた祭司たちとラビたちさえ、聖なる職務のかけで不正直な行為によって私腹を肥やすような不義を行っていた。しかしザアカイは、聖霊の感化力に身をまかせるとすぐに、正直に反する行為をいっさい捨てた。」(同上 377)

3. やわらげられた心

- a. 多くの中傷者たちが自分の正直さを疑問に思っているのを知って、ザアカイは何と言いましたか (ルカ 19:8)。これは旧約のどの原則に調和していましたか。そこから何を学ぶべきですか (出エジプト記 22:1)。

「自分の罪を認めて神の前にへりくだらない者は、神に受け入れられる最初の条件さえ果していないのである。悔いのない悔い改めをし、ほんとうにへりくだった砕けた心で罪を告白し、自分の罪悪を心から憎んでいるのであれば、真に罪のゆるしを求めたとはいえない。また、罪のゆるしを求めたことがなければ、神よりの平和を見いだすことはできない。わたしたちが過去の罪のゆるしを味わっていない、ただ一つの理由は、心を卑くして真理のみ言葉の条件に従っていないからで、この点について次のようにはっきりと教えられている。罪の告白は、それが公のものであっても、個人的のものであっても、真心からのものであっても、十分に言い表わされなければならない。罪人に無理にしてい言わせるものではない。また、告白は軽率に不注意になされてはならない。ほんとうに、罪がどんなにいまわしいものであるかを認めていない人にしいるものでもない。」(キリストへの道 46, 47)

「改革を伴わない悔い改めは、真正なものではない。キリストの義は、告白されてもいなければ捨てられてもいない罪をおおう外衣ではない。それは品性を一変し、行為を規制する生活原則である。聖潔とは神のために完全になることである。それは内住する天の原則に対して心と生活をまったく屈服させることである。

クリスチャンは、その実業生活において、主ならこのように事業を経営されるであろうという方法を世にあらわすのである。すべての取り引きにおいて、彼は神が自分の教師であることを明らかにする。『主に聖なる者』ということが、日記帳にも元帳にも証書にも領収書にも書かれている。」(各時代の希望中巻 377)

- b. 本物の告白のうちに自分の内なる魂を注ぎだす人々について、詩篇記者は何と言いましたか (詩篇 34:18)。
- c. ザアカイの告白を聞いた後、キリストは何と言われましたか (ルカ 19:9)。

4. 世に対するキリストの使命

- a. キリストは世に対するご自分の使命の実例として、どのようにザアカイをお用いになりましたか (ルカ 19:9, 10)。

「キリストは、ザアカイに真理を教えるために、また彼の家族にみ国の事がらを教えるために、彼の家庭に行かれた。彼らはラビたちと礼拝者たちから軽蔑されて、会堂から閉め出されていた。しかしいま、エリコじゅうで最も恵まれた家族として、彼らは、自分の家で天来の教師のまわりに集まり、自分で命のみことばを聞いた。」(各時代の希望中巻 378)

- b. 救いの良き知らせを説明するのにお用いになった教訓を完成させるため、キリストが追加された譬を述べなさい (ルカ 19:12-26)。
- c. 失われている者を救おうとする際にわたしたちに求められていることは何ですか (コリント第二 5:14, 15, 20)。

「わたしたちはこの世にあって神もなく、望みもない人々に救いの感化力を発揮しなければならない。逃れの町への道は、罪の利己心というごみがないように保たれていなければならない。神の小羊に従っていると公言する人々は、道からすべてのつまずきの石を取り除かなければならない。しかし、あまりにもしばしば真理を信じてと主張する人々が、他の人の道につまずきの石を置くのである。彼らはキリストを知っていると言うが、行いではこのお方を否定している。彼らの軽率なふるまいによって、助けることができたはずの人々を傷つけているのである。」(サイン・オブ・タイムズ 1899 年 11 月 29 日)

「わたしたちの時代はあわれみの最後の使命の招待が、人の子らにむかって発せられているときである。『道やかきねのあたりに出て行け』という命令は、その最後の成就に至っている。キリストの招待はすべての魂に発せられるべきである。使者は、『さあ、おいでください。もう準備ができましたから』と言っている。天使たちは今も人間の働き人と協力して働いている。聖霊はあなたをしいて来させるために、あらゆる手をつくしておられる。キリストはあなたの心にはいろうとして、かんぬきがはずされ、扉が開かれたことを示す物音を聞こうと耳をそばだてておられる。天使たちは、更にもう一人の罪人が見いだされたとの知らせを天にもたらすために、待っている。」(キリストの実物教訓 218)

5. 神との共労者

- a. もしわたしたちが神との共労者として神から与えられた分をなしさえすれば、救い主のどの言葉が多くの家庭に及びますか (ルカ 19:5)。

「もし神のしもべたちが信仰によって主と共に歩むならば、主は彼らのメッセージに力をお与えになる。彼らは、人々が福音を受けいれないではいられなくなるように、神の愛を示すとともに神の恵みを拒むことは危険であることを示すことができる。人が神から与えられた分をなしさえすれば、キリストは驚くべき奇跡を行なわれるであろう。今日も人間の心の中に、過去幾時代もの間に行なわれてきた大変化がなしとげられるであろう。ジョン・バンヤンは歓楽と冒涇(ぼうとく)の中から救われ、ジョン・ニュートンはどれい売買から救われて、高くあげられた救い主を伝えた。今日も、バンヤンやニュートンのような人が多くの人々の中から救われるにちがいない。神と協力する人間の器によって、多くのあわれな社会の日陰者たちが教化され、ひるがえって彼らは、人間の中に神のみ姿を回復したいと願うようになる。よりよい道を知らないために、非常にわずかの機会にしかめぐまれず、誤った道に歩んでいる者が多くいる。そういう人々に光が潮のようによせて来るのである。キリストがザアカイに、『きょう、あなたの家に泊まることにしているから』とお語りになったように、主は彼らにも語りかけられる (ルカ 19:5)。そしてがんこな罪人であると見なされていた者たちが、キリストに目をとめていただいたために、幼児のようにやさしい心を持つ者となる。多くのものが大きなあやまちと罪から救い出される。そして機会と特権にめぐまれていながら、それを尊ばなかった者の位置をかわって占めるのである。彼らは神にえらばれた者、尊い者となり、キリストがみ国におはいりになるときには、彼らはキリストのみ座の一番近くに立つのである。」(キリストの実物教訓 216, 217)

個人的な復習問題

1. ザアカイに対するキリストの態度は、どのようにわたしたちに希望をもたらしますか。
2. ザアカイはだれかが自分を非難するすきを与える前に何と申しましたか。
3. キリストはザアカイの家で、なぜ公に勝利を宣言なさることができたのですか。
4. ザアカイの家が喜んだように、どのように今日多くの人々が喜ぶべきですか。
5. 失われた人々を救おうとする働きにおいて、わたしたちにどのような協力が求められていますか。

福音の秩序

「すべてのことを適宜に、かつ秩序を正して行うがよい。」(コリント第一 14:40)

「天には秩序がある。そして、地上にいる救いの相続人たちによって、それは模倣されるのである。」(教会への証 2 巻 697, 698)

推奨文献：初代文集 189-200

日曜日

12月7日

1. 最高位にある神の方法

- a. わたしたちの方法とご自分の方法の違いについて、神は何と仰せになりますか (イザヤ 55:8, 9)。
- b. 神のみ働きを実施するわたしたちのすべての計画において、わたしたちは何を真剣に考慮すべきですか (エペソ 6:6)。

「民としてわたしたちは神のみ働きを実施するための神のご計画を研究すべきである。このお方がいかなる点でも指示を与えてこられたところでは、その表明されたみ旨をいかに尊重するか注意深く考えるべきである。」(牧師への証 342)

- c. 福音の秩序に関して、パウロの態度やそのほかの使徒たちの態度を述べなさい(コリント第一 4:1, 2)。

「パウロは義のために固く立った。教会が人間の権力による支配下に置かれてはならないということを、彼は知っていた。啓示された真理が、人間の伝説や格言に置きかえられてはならない。……神の直接の導きを求めながらも、パウロは、教会員として一致している信者たち全体にさづけられた権威を、常に重んじる態度を取った。彼は話し合いの必要を感じていた。そして、重要な事が起こると、彼は快くそれを教会にゆだねて、兄弟たちと共に心を合わせて神に知恵を求め、正しい決定を行った。」(患難から栄光へ上巻 215)

2. 旧約時代における組織

- a. エテロは自分の義理の息子であるモーセにどのような勧告をしましたか。それはなぜですか (出エジプト記 18:14-22)。

「神は、秩序の神である。天と関係がある者は、すべて、完全な秩序を保っている。服従と完全な規律が、天使軍の行動の特徴である。秩序と行動の一致があつてはじめて、成功をおさめることができる。神は、イスラエルの時代と同様に、今日も神の働きにおいて、秩序と組織を要求される。神のために働いている者は、だれでも軽率で中途はんばなやり方でなくて、物事をよく考えてしなければならない。神は、神の働きが、信仰と正確さをもって行なわれることを望まれる。それは、神が、ご自分の是認の印をその働きに押すことができるためである。」(人類のあけぼの上巻 447, 448)

- b. イスラエルの陣営において責任を担うために選ばれた人のうちに求められた四つの主な資質をあげなさい (出エジプト記 18:21)。

「[出エジプト記 18:19-23 引用]。この勧告はわたしたちのためである。……モーセに対する指示の中で主は非常にはっきりと勧告者として重要な地位を占めるべき人々の品性を述べておられる。彼らは、『有能な人で、神を恐れ、誠実で不義の利を憎む』者でなければならない。主の勧告があやしむべきほどに無視されている。」(牧師への証 341)

- c. なぜバラムの思いはのろいで満たされていたのに、イスラエルに祝福を宣言せざるを得なかったのですか (民数記 23:8, 9)。どの土台に基づいてイスラエルは祝福されるのですか (申命記 4:1, 6-9)。

「バラムはイスラエルの陣営を見たとき、彼らの繁栄の証拠をながめて驚嘆した。彼は、彼らが組になってそこここに出没し、国を荒らしまわる、粗野で無秩序な群衆であつて、周囲の国々からきらわれ、恐れられていると聞かされていた。しかし、彼らの外観は、それとは全く反対であつた。彼は、彼らの陣営の驚くべき広さと完全な秩序を見た。すべてのものは、完全な規律と秩序のもとにあつた。彼は、神がイスラエルにくだされた恵みと選民としての彼らの特殊な性質を示された。彼らは他の国々と同じ水準のものではなく、それらすべてをはるかに越えて高められたものであつた。」(人類のあけぼの下巻 55)

3. 新約の教会における組織

- a. 神はどの目的のために、ご自分のしもべの一人びとりに賜物と恵みを与えてくださるのですか（エペソ 4:7, 8, 11, 12）。

「わたしたちのいくつかの召しにおいて、支援のために相互依存があるべきである。」（牧師への証 491）

- b. わたしたちのただ中で主の働きが成功するために、わたしたちの精神を特徴づけなければならないことは何ですか（コリント第一 12:21, 25; エペソ 4:16）。どの過ちに対して、わたしたちは戸を閉ざすべきですか。

「わたしたちは各々主を待ちのぞもう。そうすればこのお方はどのように働くべきかをわたしたちに教えてくださる。このお方は実行するのに最もよく適応した働きをわたしたちに明らかにしてください。このことによって、人が独立心のうちに新しい理論を広め始めるように導かれるのではない。この時代にサタンは偽りの科学を高めることによって神の律法を無効にしようとしている。わたしたちは自分たちの信仰を弱め、わたしたちの力を分散する傾向にあるすべてのものに対して注意深く防御する必要がある。神と共に働く働き人として、わたしたちは真理とわたしたちの兄弟たちに調和していなければならない。勧告と協力があるべきである。」（同上 490）

「自分の働き人仲間から離れる精神、組織を分解する精神が、まさにわたしたちの呼吸している空気の中にある。ある人々は、秩序を打ち立てようとするすべての努力を、危険なもの、すなわち個人の自由に対する制限であり、したがってカトリック的なものとして恐れるべきものとみなす。」（同上 488）

- c. キリストに従う人々はどのように互いに敬意を払うべきですか（ペテロ第一 5:5, 6）。

「神の民の中には、神のみ働きにおいて長い経験があり、信仰から離れなかった人がある。彼らが経験した数々の大きな試練にもかかわらず、彼らは忠実であり続けた。これらの人々は試された選ばれた勧告者としてみなされるべきである。彼らは尊敬されるべきであり、彼らの判断は、より若くより経験の少ない人々によって、たとえその若い人たちが職務の地位についていたとしても、尊ばれるべきである。」（同上 497）

4. 無我の僕

a. 教会の役員に按手する際、どの標準を適用すべきですか (テトス 1:5-9)。

「地上の神の教会において、指導者として行動するように召されている人々に負わされている責任は、厳粛である。」(患難から栄光へ上巻 94)

すべての教会において物事をきちんと整え、役員として働くにふさわしい人々を任命するにあたって、使徒たちは旧約聖書に述べられている、指導者の高い標準を固く守った。」(同上 98)

「わたしは、教会がその責任を感じ、教師であると公言する人々の生活、資格、一般の行為などに注意深く気をつけていなければならないことを示された。もし、神が彼らを召されたこと、また、彼らがこの召しに答えなければ『わざわいである』ということについての、誤りのない証拠があるのでなければ、教会は、この人々が教師として教会の承認を受けてはいないことを、知らせる義務がある。」(初代文集 194)

「イエスに仕える者であると公言するものは、体験と深い敬神の念を持っていなければならない。そうすれば、いつでもどこでも、聖なる影響を及ぼすことができる。」(同上 199)

「神の牧師は、毎日、苦しみ、欠乏、失望、悲惨、不信に出会う。彼らの働きは自己を喜ばせる働きではない。多くの、実に多くの魂が救われていない。信仰によって自らを主に結びつけ、罪人に救い主が彼らを呼んでおられることを告げなさい。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1898 年 7 月 26 日)

b. 使徒ペテロは、キリストの群れの羊飼いとしての彼らの責任について教会の長老たちに何と言いましたか (ペテロ第一 5:1-5)。

「羊飼いの地位を占める者は、主の群れを注意深く見守らねばならない。それは、独裁的な監視ではなくて、励まし、強め、高めるよう導くものでなければならない。牧師の務めには、説教すること以上の意味がある。それは熱心な、個人的な働きである。」(患難から栄光へ下巻 225)

「教会で責任ある地位を占めている人々への教えに関連して、使徒ペテロは、教会で交わる人々みんなが従わなければならない一般的な原則のあらましを述べた。群れの若い者たちは、長老たちの模範にならって、キリストのような謙遜な態度を身につけるように勧められた。」(同上 227)

5. 自己派遣の使命者たち

- a. この終わりの時代において神はご自分の子らのために、どの働きをしておられますか。主の働きを妨害するために、サタンはどの策略を用いていますか（ローマ 16:17, 18; 使徒行伝 20:27-30）。

「今、この最後の時代にあって、神が、神の民を信仰の一致に導こうとしておられるときに、これまでよりも、もっと真の秩序がなければならない。なぜなら、神が、ご自分の子供たちを一致させられると、サタンと彼の天使たちは、この一致を妨げ、それを破壊しようとして忙しく活動するからである。その結果、知恵と判断力に欠け、自分たち自身の家をよく治めず、神が家庭において彼らにゆだねられた少数の者の秩序を保ったり治めたりすることができないような人々が、あわただしく伝道地に送り出される。しかも彼らは、自分たちは群れの責任を負うことができると考えるのである。」（初代文集 190）

「その生活が清くなく、現代の真理を教える資格のない者が、教会や一般信徒の承認を得ないで伝道地に入っていくと、混乱と不統一を引き起こす。」（同上 191）

- b. 自己派遣の使命者たちによって損なわれた場所に入っていくのと、新しい伝道地に入るのとでは、どちらの方がやさしいですか。

「このような誤った影響を及ぼした人々のいた場所へ行くことは、新しい伝道地へ行くよりも、神の使命者の心を疲労させる。」（同上 193）

個人的な復習問題

1. 神のみ働きのために選出された人々のうちに、どの資質が明らかであるべきですか。
2. 神はなぜご自分の僕の一人数に賜物と恵みを与えておられるのですか。
3. わたしたちのただ中で主の働きが確実に成功するように、互いにどの態度を表さなければなりませんか。
4. 教会の役員を按手する際に、使徒たちはどの標準を採用しましたか。
5. 使徒行伝 20:27-30 におけるパウロの警告は何でしたか。

行ってすべての国民に教えよ

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として（教え）、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し」（マタイ 28:19）

「すべての地上の住民の上に、高い者にも低い者にも、富める者にも貧しい者にも、天の光がはっきりとした強い光線のうちに輝いていた。弟子たちは世の救いの働きにおいて自分たちの贖い主の共労者となるのであった。」（*レ・ビュー・アンド・ヘラルド* 1913 年）
10 月 9 日）

推奨文献：各時代の希望下巻 361-369

日曜日

12 月 14 日

1. ガリラヤでの集会

- a. 最後の晩餐の間、イエスは将来すべての信徒たちと会うことについて、弟子たちにどのような指示をお与えになりましたか（マタイ 26:32; 28:16）。
- b. この集会に何人が出席していましたか（コリント第一 15:6）。

「定められた時間になると、およそ五百人の信者たちが山の上いくつかの小さなかたまりになって集まり、キリストがよみがえられてからお会いした人たちから聞けるだけのことを聞こうと熱心に待った。弟子たちはこの群れからあの群れへと歩きまわって、自分たちがイエスについて見たり聞いたりしたことを語り、またイエスが自分たちにそうされたように、聖書から説き聞かせた。トマスは自分が不信仰だった話を物語り、彼の疑いが一掃されたことを語った。突然イエスが彼らの間に立たれた。どこから、どうやってこられたのかだれにもわからなかった。集まっていた人々の多くは、これまでイエスにお会いしたことがなかったが、その手と足に十字架につけられた傷跡を見た。イエスのお顔は神のみ顔のようだったので、彼らはイエスを見て、礼拝した。」（各時代の希望下巻 362）

2. 聖なる任務

- a. 弟子たちが魂を救う働きにおいてキリストの共労者となるように召されたとき、この方は彼らにどのような任務をお与えになりましたか（マタイ 28:19, 20; マルコ 16:15, 16）。
- b. この任務は、どのようにパリサイ人たちの排他主義に反していましたか（使徒行伝 13:46; 22:21, 22; ガラテヤ 3:28）。

「ユダヤ国民は聖なる真理の保管者とされたが、パリサイ主義のために全人類の中で最も排他的で最も頑迷な者となった。祭司たちと役人たちについてのすべて、すなわちその衣服、風習、儀式、言い伝えは、彼らを世の光とするのにふさわしくなかった。彼らは自分自身すなわちユダヤ国民を世界とみなした。しかしキリストは、階級制度や国の差別をまったく含まない信仰と礼拝、すなわちすべての民族、すべての国民、すべての階級の人々に適応する信仰をのべ伝えるために弟子たちを任命されたのである。」（各時代の希望下巻 364, 365）

- c. なぜ、弟子たちはエルサレムで働きを始めなければならなかったのですか（使徒行伝 1:8）。

「エルサレムには、これまでひそかにイエスを信じていた人々、祭司たちと役人たちにだまされていた人々がたくさんいた。この人たちにも福音が示されるのであった。彼らに悔い改めが呼びかけられるのであった。キリストを通してのみ、罪のゆるしが得られるというすばらしい真理が明らかにされるのであった。過ぐる数週間の感動的な事件のためにエルサレムじゅうがわきたっているとき、福音の宣伝は最も深い印象を与えるであろう。

しかし、この働きはエルサレムにとどまるのではなかった。それは地の果てまでひろがるのであった。……望む者はだれでも、神とやわらぎ、永遠の生命を受ける。弟子たちよ、あなたがたにわたしはこのあわれみのメッセージをゆだねる。それはまずイスラエルに与えられ、次に諸国、諸国語、諸民族に与えられるのである。それはユダヤ人にも異邦人にも与えられるのである。信じる者はすべて一つの教会に集められるのである。」（同上 366, 367）

3. 約束された賜物

- a. どのようにして弟子たちは言葉を学ぶ時間をとることなく、他の国々のあいだで説教することができるようになったのですか（コリント第一 12:7, 10）。

「弟子たちは、イエスが『民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった』のと同じ力を持つのであった（マタイ 4:23）。キリストの名によって肉体の病気をいやすことによって、彼らの魂をいやしてくださるキリストの力をあかしするのであった（マタイ 9:6 参照）。そこでいま新しい賜物が約束された。弟子たちは、他の国民にも福音を説くことになるので、他の国語を話す力を受けるのであった。使徒たちとその仲間は無学な人たちだったが、ペンテコステの日に聖霊の降下を受けることによって、彼らのことばは、自国語であろうと外国語であろうと、語句においてもアクセントにおいても純粹で、単純で、正確なものとなった。

こうしてキリストは、弟子たちに任務をお与えになった。働きの遂行にイエスは十分な道を備え、その成功の責任をご自身が負われた。彼らがイエスのことばに従い、イエスにつながって働くかぎり、失敗することはないのであった。すべての国民に行きなさいと、イエスは彼らにお命じになった。人の住むかぎりどんな地球の果てまで行っても、わたしがそこにいることを知りなさい。信仰と確信をもって働きなさい。わたしがあなたがたを捨てる時は決してないのだから。」（各時代の希望下巻 367, 368）

- b. 聖霊の賜物を通して、福音の代表者たちによってどの奇跡が行われましたか（マルコ 16:17, 18; コリント第一 12:11）。

「福音にはいまでも同じ力があるのだから、今日同じ結果が見られないはずがない。

キリストは苦しんでいるひとりびとりの魂の不幸をお感じになる。悪霊が人間の肉体を破滅させるときに、そのわざわいをお感じになる。高熱に生命の流れが焼きつくされるときに、イエスはその苦悩をお感じになる。そして主はご自分がこの地上におられたときと同じに、いまもよろこんで病人をいやされる。キリストのしもべたちは キリストの代表者であって、キリストの働きのうつわである。主は彼らを通していやしの力を働かそうと望まれる。」（同上 371）

4. キリストの教会の厳粛な義務

- a. イスラエルの指導者たちの統治は神の御名のうちに、そして神の権威によって立てられたのであるから、彼らにはどのような義務と禁止が課されていましたか（申命記 4:1, 2）。

「イスラエルの政治は、神の名とその権威のもとに行なわれた。モーセと七十人の長老、つかさと士師たちの務めは、単に、神がお与えになった律法を実施することであった。彼らには、国家の法律を制定する権はなかった。これが、イスラエルの国家としての存在のあり方であり、そのように継続すべきものであった。どの時代においても、神の靈感を受けた人々が送られて、民を教え、律法の実施の指示を与えた。」（人類のあけぼの下巻 265）

- b. 人々にキリストがお命じになったとおり、「すべてのことを守る」ように教えるという義務を、わたしたちはどのように理解すべきですか（マタイ 28:20）。

「弟子たちにお与えになった任務の中に、キリストは、彼らの働きのあらましを述べられたばかりでなく、彼らのメッセージもお与えになった。『あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ』とキリストは言われた（マタイ 28:20）。弟子たちはキリストがお教えになったことを教えるのであった。キリストがご自身の口を通してばかりでなく、旧約のすべての預言者たちと教師たちを通して語られたことがここに含まれている。人間の教えは除外されている。言い伝えや、人間の理論や結論、あるいは教会の律法がはいる余地はない。教会の権威によって定められたおきては、この任務の中に含まれていない。キリストのしもべたちは、そうしたものを教えるのではなかった。」（各時代の希望下巻 375）

- c. 罪に陥っている人々に対する教会の義務は何ですか（テモテ第二 4:2）。

「危険のうちにあるひとりびとりの魂に警告なさい。自分をごまかしているのをそのままにしておいてはならない。罪を罪と呼びなさい。うそをつくこと、安息日を破ること、盗むこと、偶像をおがむこと、そのほかあらゆる悪について神が言っておられることを告げなさい。『このようなことを行う者は、神の国をつぐことがない』（ガラテヤ 5:21）。もし彼らがあくまで罪を離れないならば、あなたがたが神のみことばによって宣告したさばきは、天で彼らの上にくだるのである。』（同上 343）

5. 魂を勝ち得るすべての人への基本的な質問

- a. キリストのために働こうとするすべての働き人はどの質問に答えるべきですか (ヨハネ 21:15-17)。
- b. どのようにしてのみ、わたしたちはキリストの働きにおける器となることができますか (ヨハネ第一 4:7-12)。

「キリストのすべてのいやしのわざには愛の力があつた。信仰によってその愛にあずかることによってのみキリストのみわざのうつわとなることができるのである。もしキリストとの聖なるつながりをおろそかにするなら、生命を与える力の流れが豊かな流れとなってわれわれから人々にながれることができない。……

キリストが共にいてくださると教会に約束されているのは、そのみわざをなすことによってである。行つてすべての国民に教えなさい、『見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである』と、キリストは言われた (マタイ 28:20)。キリストのくびきを負うことが、キリストの力を受ける第一の条件である。教会の生命そのものは、教会が主の任命を忠実に果たすことにかかっている。この働きをおろそかにすれば、そこにはかならず霊的な弱さと衰えが生じる。人々のための活動的な働きがないところでは愛は衰え、信仰は弱くなる。

キリストは、福音の働きにおいて、牧師たちが教会の教育者になるように望んでおられる。彼らは、失われた者を たずね求めて救う方法を教会員に教えるのである。しかし彼らはこの働きをしているだろうか。」(各時代の希望下巻 373, 374)

個人的な復習問題

1. 各々キリストに従う人に委ねられているキリストの任務は何ですか。
2. わたしたちはどのようにパリサイ主義的な排他主義に対して、どのように警告されていますか。
3. 具体的にどの賜物によって、弟子たちは他の国々に救いのメッセージを伝えることができましたか。そしてこのことについてわたしたちは何を理解しなければなりませんか
4. なぜマタイ 28:20 中のイエスのご命令は人間の教えを排除するのですか。
5. 魂を勝ち得るすべての人を特徴づけるべき第一の資質は何ですか。

神はあなたを召しておられる！

「招かれる者は多いが、選ばれる者は少ない。」「御霊も花嫁も共に言った、『きたりませ』。また、聞く者も『きたりませ』と言いなさい。」（マタイ 22:14; 黙示録 22:17）

「主はご自分の民を地球の様々な場所へ遣わしてこられた……それは彼らが魂を闇から光へと勝ち取ることができるためである。彼らの最初の働きは、十字架につけられたお方キリストはわたしたちの救い主であるとのメッセージを担うことである。」（レビュー・アンド・ヘラルド 1899 年 8 月 15 日）

推奨文献：各時代の希望下巻 371-378

日曜日

12月21日

1. 神の召し

- a. キリストがご自分の弟子たちにお与えになった任務には信徒全員が含まれていますか。あるいは、教会で特別な職務を受けた人々だけですか（マタイ 28:19, 20）。

「救い主が弟子たちにお与えになった任務には信者の全部が含まれていた。これには世の終わりにいたるまですべてのキリスト信者が含まれている。救霊の働きが牧師だけに負わされていると考えるのは重大な誤りである。天の靈感を受けた者はすべて福音をのべ伝える責任が負わされる。キリストの生命を受ける者はみな同胞の救いのために働くように任命される。」（各時代の希望下巻 368）

- b. 世の光は、ある限られた数の人々だけに輝くべきですか。あるいは、区別なく全人類の上に輝くべきですか（ヨハネ 1:9; 8:12; マタイ 24:14）。

「キリストはへだての壁すなわち国籍というへだての偏見を打破し、全人類家族への愛を教えておられる。主は、人間の利己心が定めたせまい社会から人々を高められる。主は、地域的な境界線と人間のつくった社会的な差別を廃止される。キリストは隣人と他人、友人と敵の区別をされない。」（各時代の希望下巻 370）

2. 神のみ働きにおける賜物の多様性

- a. なぜ神はご自分のすべての僕たちから同じ種類の奉仕をお求めにならないのですか（コリント第一 12:4-7）。

「神は、われわれが神への奉仕をわれわれの生活の第一のものとし、この地上において、神の働きを進展させるために、一日に何かを必ず行うことを求めておられるのである。神はわれわれがみな同じ種類の働きをすることを期待しておられない。外国で働くように召される者もあれば、福音の事業を支えるために、財産を献げるように求められる者もある。神は各自の献げ物をお受けになる。必要なのは生涯とそのすべての影響力とを献げることである。このような献身をする者は、天の神の召しを聞いて、従うのである。」（国と指導者上巻 189）

- b. 神が奉仕するようにわたしたちを召しておられることを、いつ確信するのですか。わたしたちはどのように応えるべきですか（イザヤ 6:8）。

「神の恵みにあずかる者となったすべての者に、神は他の人々のためになすべき働きをお命じになる。各自はそれぞれの立場において、『ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください』と言わなければならない。み言葉を伝える牧師、または医師、商人、農夫、専門職、技師であっても、人はみな責任が負わせられている。自分が救われた福音を他の人々に伝えることがその人の務めである。どのような仕事に従事していても、それはこの目的のための手段でなければならないのである。」（同上 190）

- c. 召しが自分に及んだときにためらう人について、イエスは何と言われましたか（マタイ 19:23; ルカ 9:59-62; 14:33）。伝道の働きのための準備において自制心にかけている人々は何を理解すべきですか。

「正しい方法で仕事に取りかかり、それをしっかりとつかんで、確実に押し進める人がいなくてはならない。すべてのことは熟慮した計画に従って、体系的な手順でなされなければならない。神はご自分の聖なる働きを人にお委ねになった。そしてこのお方は彼らがそれを注意深くなすよう求めておられる。万事において規則性が重要不可欠である。決して約束に遅れてはならない。どの支部でも事務所でも不要な会話に時間を無駄にしてはならない。神の働きは受けていないものを要求している。なぜなら、人が知恵の神から学ばないからである。」（伝道 649）

3. 失望に打ち勝つ

- a. 弱気で落胆したクリスチャンに、神はどの質問をなさいますか（列王記上 19:9）。

「真実で忠実な人々のたゆまぬ活動に負うところが多いのである。そのためにサタンは、服従する人々によって行われる神のみこころを、なんとかして妨げようと努力するのである。サタンはある者に、彼らの崇高で聖なる任務を見失わせて、この世の快樂に満足を味わわせようとする。サタンは彼らを安楽に定住させるか、それとも大きな世俗的利益を求めて、よい感化を及ぼすことができる場所から、彼らを移動させようと導くのである。彼はまた他の人々を、反対や迫害のゆえに失望させて、義務を行うことを回避させる。しかし天の神は、こうしたすべての人々を、この上もない慈悲深い心をもって見守られるのである。魂の敵によってその声を沈黙させられたすべての神の子に対して、『あなたはここで何をしているのか』という質問が投げかけられている。わたしはあなたに、全世界に出て行って福音を宣べ伝え、人々に神の日のための備えをさせるように任命したのである。あなたは、なぜここにいるのか。だが、あなたを送り出したのか。」（国と指導者上巻 140）

- b. 救いがわたしたちにとって何を意味するかを悟るとき、わたしたちは自分の周りにいる人々の甚大な必要をどのように見ることができるようになりますか（コリント第二 5:14, 19, 20）。

「贖罪が、彼らと彼らの同胞にとって、どんなことを意味するものであるかをたとえわずかでも自覚する者は、人類の必要の大きさが幾分か理解できよう。彼らは、恐ろしい運命のもとにある幾千という人々の道徳的、靈的欠乏を見るときに、彼らに対して深いあわれみの情を抱くであろう。それと比較するならば、肉体的苦痛はなんでもなくなるのである。

個人と同様に家族に対しても、『あなたはここで何をしているのか』という質問がなされている。多くの教会の中には、神のみ言葉の真理についてよく教えられた家族がある。そのような人々は、彼らのできる奉仕を必要としている場所へ移っていった、彼らの影響力の範囲を広げるとよいのである。神はキリスト者の家族が、地上の暗黒の場所へ出て行って、靈的暗黒に閉ざされている人々のために、賢く忍耐強く働くように招いておられる。こうした召しにこたえるのには、自己犠牲が必要である。多くの人々がすべての障害物の取り除かれるのを待っている間に、魂は望みなく、神なく死んでいる。」（同上 140, 141）

4. 無関心を克服する

a. 失望のほかに、どのような危険が門口にひそんでいますか (黙示録 3:15)。

「ラオデキヤ教会へのメッセージは、民としてのわたしたちの状態を表している。」
(SDA パイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 7 巻 961)

「神の愛の熱心さがわたしたちの心のうちに欠乏している。しかし、神の民をこの世の光とするのは、実にこの愛の熱心さなのである。」(同上)

「二心のクリスチャンは不信心者よりもたちが悪い。なぜなら、彼らの欺瞞的な言葉とあいまいな立場は多くの人を迷わせるからである。不信心者は自分の色を示す。生ぬるいクリスチャンは両者を欺く。彼は良い世俗人でもないし、良いクリスチャンでもない。サタンは他のだれにもできない仕事をするためにその人を用いる。」
(同上 963)

b. わたしたちは個々の信徒として、どのようにラオデキヤの無関心から抜け出す道を見出すことができますか (使徒行伝 3:19, 20; 黙示録 3:18, 19)。

「悔い改めの働きが熱心で深いならば、教会の個々のメンバーは天の豊かな品物を買うのである。〔黙示録 3:18 引用〕。」(同上 961)

「まことの証人は、ご自分を信じる信仰を通して謙遜な従順の道を歩もうとするすべての人に励ましを提示される。このお方は『勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である』と宣言なさる。……

教会の神聖な頭であられるお方、最も力強い勝利者は、ご自分に従う人々にご自分の生涯を指し示される。……それは彼らが目標を目ざして賞与と勝利者の報いを得ようと押し進む勇気を得ることができるためである。勝利は、信仰と従順を通して保証されている。」(同上 966)

c. 無関心でい続けようと決心する人々にどのような宣告がなされますか (黙示録 3:16, 17; マタイ 24:48-51)。

5. ついに家に！

- a. 魂の救いの働きにおいて、積極的に役割を果たした勝利者たちに、キリストは何と仰せになりますか（マタイ 25:34）。
- b. 贖われた聖徒たちにどの報いが約束されていますか（ヨハネ 14:1-3; ヨハネ第一 3:2）。

「忠実な働き人が神と小羊のみ座の周りに集まるときに与えられる報いは栄光に満ちたものである。ヨハネが死すべき人間として神の栄光を眺めたとき、死人のように倒れた。彼はその光景に耐えることができなかった。しかし、神の子らが不死をまとうとき、彼らは『そのまことの御姿を見る』（ヨハネ第一 3:2）。彼らは御座の前に立ち、愛されているお方のうちに受け入れられる。彼らのすべての罪は除去され、そのすべての不義は取り去られた。今や彼らは神のみ座のくもりのない栄光を見ることができるのである。」（神の驚くべき愛 355）

- c. 聖徒たちは天において何に驚きますか（コリント第一 2:9）。

「あるクリスチャンがかつて、自分が天に行くと三つ驚くことに会うであろうと言った。彼はそこで会おうとは思わなかった人々を見て驚くであろう。彼はそこで会うと思っていた人々に会わなくて驚くであろう。そして最後に、最も驚くのは、自分のような無価値な罪人が神のパラダイスにいるのを見て驚くのである。」（信仰によってわたしは生きる 370）

個人的な復習問題

- 1. 偉大な任務の遠大な範囲を説明しなさい。
- 2. わたしたちが、わたしたちにとって救いが何を意味するかを真に悟るとき、自分たちの周りにいる人々の甚大な必要をどのように見ることができるようになりますか。
- 3. 神は弱気で落胆したクリスチャンにどのような質問をなさいますか。
- 4. ラオデキヤの時代に、わたしたちはどのように勝利者になることができますか。
- 5. どのような要素が、魂を勝ち得るのに成功した人々を待っている永遠の喜びを構成していますか。

第一安息日献金

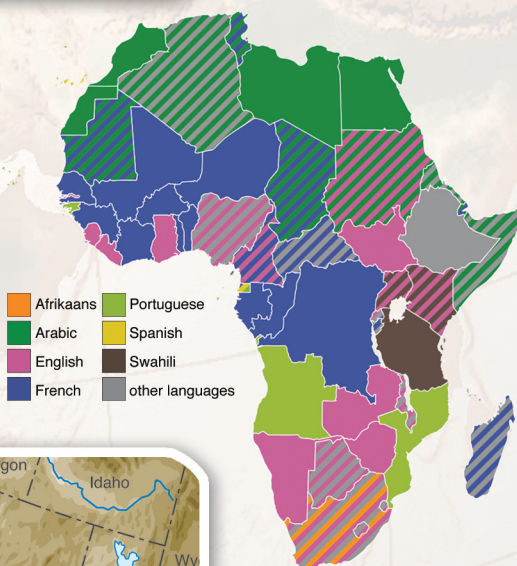


10月4日

フィリピン・ユニオンの本部の
ために
(4 ページ参照)

11月1日

アフリカの印刷所のために
(25 ページ参照)



12月6日

アメリカ合衆国カリフォルニア州
ロックリンの礼拝堂のために
(51 ページ参照)